

C2
5
161-016

○勅令第九十二號	行政裁判所處務規程	百六頁
○勅令第二百二十號	貴族院成立規則及衆議院成立規則	百八頁
○勅令第二百二十一號	貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則	百十一頁
○勅令第二百六十三號	帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則	百十三頁
○閣令第十八號	府縣會規則市制町村制及衆議院議員選舉法條 中ニアル在職官吏又ハ非職休職者ニテ議員及 市町村吏員タラントスルトキノ件	百十五頁
○宮内省達第十二號	貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者宮内省中兼職 スルヲ得サル部局指定	百十六頁
○內務省訓令第四十號	會計規則第六十九條ノ保證金額	百十六頁
○內務省訓令第四十四號	會計規則中集合仕拂命令ニ添付スル各債主ノ 金額氏名表	百十七頁
○內務省訓令第二號	衆議院議員選舉法及同施行規則ニ於ケル事務 書式等準據取扱方	百十七頁
○內務省訓令第七號	貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方	百二十頁
○內務省訓令第十號	會計規則實施ニ附キ內務省所管ニ係ルモノ取	

- 大藏省訓令第廿一號 計算出納ニ關スル諸證書ニ記載スル金額ノ用字ヲ定ム……………百二十一頁
- 大藏省訓令第廿七號 會計主務官ヨリ金庫ニ送付セル仕拂命令同請
求書ニシテ受取人へ現金交付前誤拂過渡發見
ノトキ整理手續……………百二十一頁
- 大藏省訓令第七十一號 金庫出納規程會計檢査院ヨリノ通知……………百二十三頁
- 大藏省訓令第十一號 會計規則第三十三條但書集合仕拂命令ニ添付
スヘキ各債主ノ金額氏名表書式恩賞祿ノ仕拂
ニ係ルモノ必得方……………百二十四頁
- 大藏省訓令第四十七號 從前大藏省所管諸貸付金徵収取扱方……………百二十五頁
- 大藏省訓令第九十三號 集合仕拂命令集合仕拂請求書ニ添フヘキ金額
氏名表及領收證書ニ番號付記方……………百二十五頁
- 大藏省訓令第卅七號 行政裁判所ヨリ各金庫へ寄托スヘキ豫納金取
扱方……………百二十六頁
- 文部省訓令第四號 會計規則中ノ檢査員其他ノ官吏ハ長官知事之
ヲ命ス……………百二十六頁
- 農商務省訓令第四號 會計規則第三十三條ノ集合仕拂命令ニ添付ス
ル各債主ノ金額氏名表書式……………百二十六頁

- 農商務省訓令第三十五號 會計規則物品會計規則中ノ檢査員其他ノ官吏
ハ大林區署長之ヲ命ス……………百二十七頁
- 行政裁判所告示第二號 行政訴訟豫納金手續……………百二十七頁
- 帝國議會 貴族院規則……………百二十八頁
- 帝國議會 衆議院規則……………百四十七頁
- 高知縣伺 衆議院議員選擇人及被選舉人資格ノ件……………百七十一頁
- 山口縣收稅長問合 會計法實施ニ付歲入簿等調製方ノ件……………百七十一頁
- 民法財產編……………一頁
- 民法財產取得編……………百三十三頁
- 民法債權擔保編……………二百二十九頁
- 民法證據編……………三百五頁
- 民法人事編……………三百四十頁
- 〔參照法令〕
- 法律第九十二號 增價競賣法……………三百八十七頁
- 法律第九十四號 財產委棄法……………三百八十九頁
- 法律第九十五號 非訟事件手續法……………三百九十頁

○勅令第二百十七號	總務廳供規則	二百九十五頁
○勅令第二百四十五號	供託規則	二百九十六頁
○大藏省令第三十九號	供託物取扱規程	二百九十七頁
○大藏省訓令第百五十一號	預金保管金及供託物ニ關シ預金局へ書類指出方	四百六頁
○大藏省訓令第百五十五號	供託物取扱順序	四百六頁

●商法

〔參照法令〕

○法律第五十九號	商法施行條例	百八十三頁
○法律第六十號	商法ニ依リ株式會社債券發行方	百九十頁
○法律第六十六號	商事非訟事件印紙法	百九十一頁
○法律第七十二號	銀行條例	百九十三頁
○法律第七十三號	貯蓄銀行條例	百九十五頁
○法律第八十號	稅關法	百九十六頁
○法律第八十一號	商業會議所條例	百九十九頁
○法律第八十七號	鑛業條例	二百三頁
○法律第一百號	有罪破產者處斷方	二百十八頁

○法律第三百三號	沖繩縣ニ商法延期	二百十九頁
○法律第八號	商法及商法施行條例ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行	二百十九頁
○法律第九號	朝鮮國貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸許可港	二百二十頁
○勅令第三百三十三號	商業及船舶ノ登記ニ關スル手数料	二百二十頁
○勅令第二百三號	稅關規則	二百二十一頁
○勅令第二百四號	稅關管轄區域	二百二十九頁
○勅令第二百十九號	船籍規則	二百三十頁
○勅令第二百七十一號	印紙類賣下賣捌規則	二百三十三頁
○勅令第二百九十六號	船籍規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行	二百三十五頁
○大藏省令第二十二號	稅關規則第九條第四十八條ノ特許手数料	二百三十六頁
○大藏省令第三十四號	印紙類賣下賣捌規則施行細則	二百三十七頁
○大藏省令第三十五號	船稅徵收手續設定及十七年第三十八號達廢止	二百三十九頁
○大藏省訓令第百二十八號	稅關管轄區域制定ニ附キ沿海開港外役場ヨリ所管稅關ニ通報スヘキ場合	二百三十九頁
○大藏省訓令第百四十九號	印紙賣捌人印紙類買入帳ニ記入方及元賣捌人	二百三十九頁

○ 司法省令第八號	商業及船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則	二百四十頁
○ 農商務省令第十二號	商業會議所條例施行規則	二百四十二頁
○ 農商務省令第十七號	商業會議所條例中所得稅等級	二百四十二頁
○ 農商務省令第六十八號	商業會議所條例施行規則第三條ニ依リ會員ノ選舉ヲ終リタルトキ選舉ヲ施行セシ郡長若クハ市長ノ手續	二百四十三頁
○ 遞信省令第二十號	船籍規則施行細則	二百四十三頁
○ 遞信省訓令第六號	船籍證書ヲ要セサル船舶報告方設定其他明治十五年農商務省第十一號達同十六年同省第十三號達同十九年遞信省令第七號廢止	二百六十五頁
○ 遞信省訓令第二十四號	船籍規則施行細則ハ明治二十一年一月一日ヨリ施行	二百六十五頁
○ 遞信省訓令第八號	船籍規則第七條ノ手数料收納ハ北海道廳長官府縣知事ニ委任シ及其取扱手續	二百六十九頁
○ 遞信省訓令第九號	船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行但明治二十五年十二月三十一日迄從前ノ通報	二百六十九頁

民事訴訟法

〔參照法令〕

○ 法律第六號	裁判所構成法	百六十八頁
○ 法律第二十二號	裁判所構成法施行條例	百九十五頁
○ 法律第五十號	民事訴訟法施行條例	百九十八頁
○ 法律第五十一號	執達吏規則	二百頁
○ 法律第五十二號	執達吏手数料規則	二百四頁
○ 法律第六十二號	裁判所位置及管轄區域改定	二百九頁
○ 法律第六十四號	民事訴訟費用法	二百四十頁
○ 法律第六十五號	民事訴訟用印紙法	二百四十一頁
○ 法律第六十八號	判事懲戒法	二百四十四頁
○ 法律第六十九號	家資分散法	二百五十一頁
○ 法律第九十三號	裁判上代位法	二百五十二頁
○ 法律第九十四號	婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則	二百五十三頁
○ 勅令第一百五十八號	判事檢事官等俸給令	二百五十九頁
○ 勅令第一百五十九號	裁判所書記長書記官等俸給	二百六十四頁

○勅令第二百六十號
 ○司法省令第二號
 ○司法省令第三號
 ○司法省令第四號
 ○司法省訓令第三號

ニ係ル規定……………二百六十五頁
 判事檢事裁判所書記及執達吏制服……………二百六十六頁
 執達吏登用規則……………二百六十六頁
 地方裁判所支部及管轄表……………二百七十頁
 區裁判所出張所管轄區域表……………二百七十五頁
 執達吏代理鑑札調製方……………三百八十四頁

●刑法……………一頁

〔參照法令〕

○第六十七號布告
 ○第八十一號布告
 ○第三十一號布告
 ○法律第三十四號
 ○法律第九十九號
 ○法律第一百號

刑法附則……………六十五頁
 新舊法比照例……………七十四頁
 違警罪即決例……………七十六頁
 決闘罪處分方……………七十八頁
 窃盜罪處分方……………七十九頁
 刑法中官廳、官署及官吏等ヲ公署官吏等ニ適用……………七十九頁

告 文

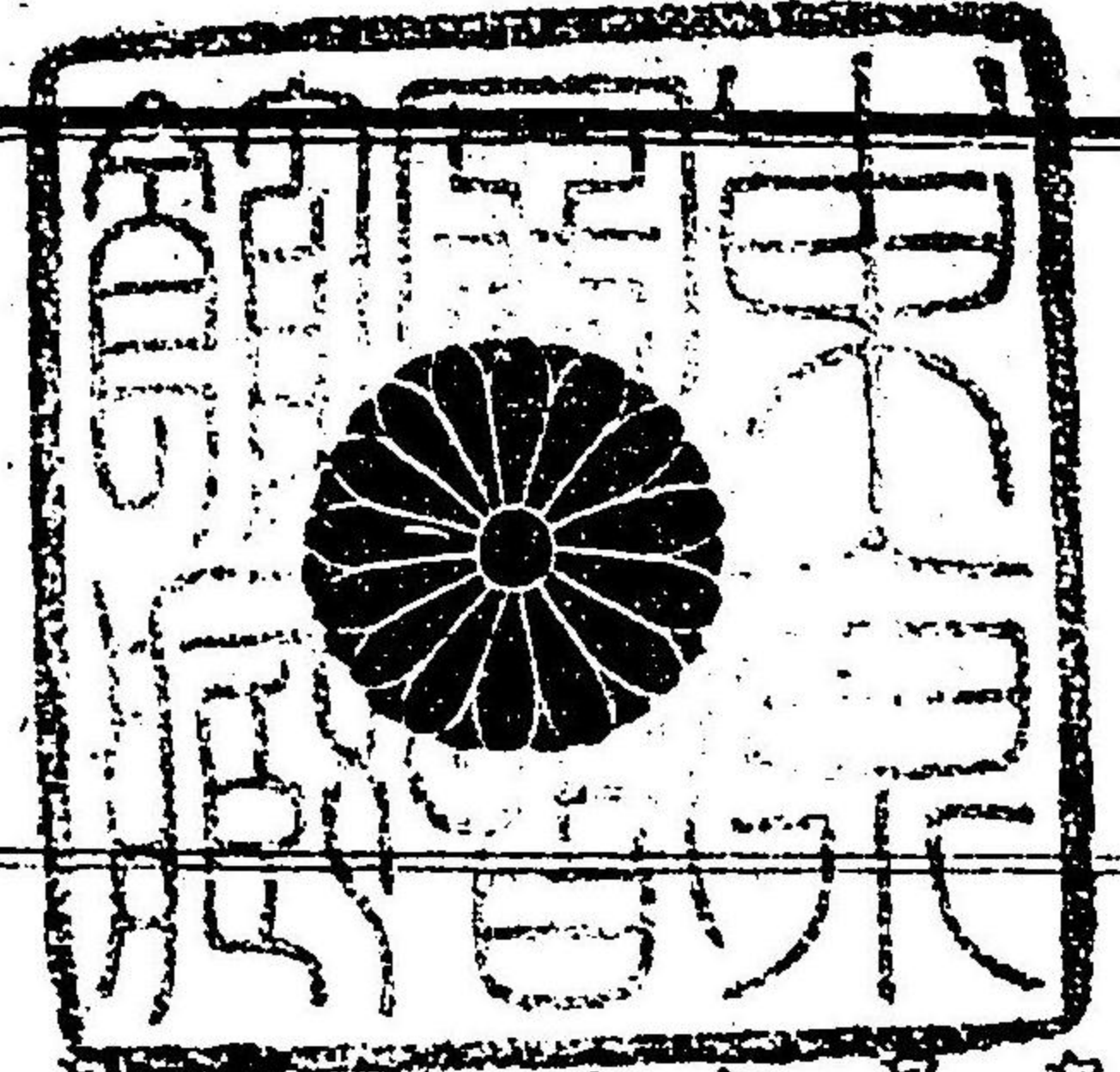
皇朕ノ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ語ケ白サク皇朕ノ天壤無窮ノ宏謨ニ循
 ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スル
 コト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨
 宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内
 ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ
 道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益ク國家ノ丕基ヲ鞏固ニ
 シテ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲





法ヲ制定ス惟フニ是レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ
外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコト
ヲ得ルハ洵ニ

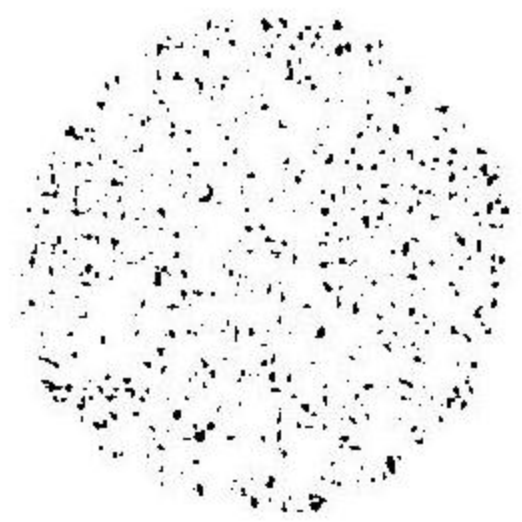
皇祖

皇宗及我カ

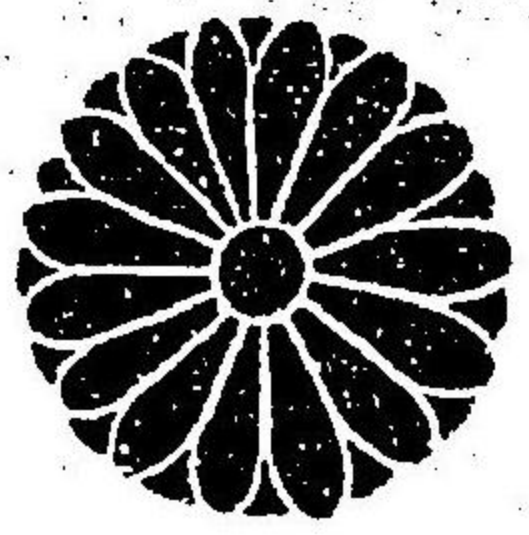
皇考ノ威靈ニ倚籍スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及将来ニ臣民ニ率
先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾
クハ神靈此レヲ鑒ミタマヘ



皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及将来ニ臣民ニ率
先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾
クハ神靈此レヲ鑒ミタマヘ



愛シ公ニ殉ヒ以テ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナ
リ朕我カ臣民ハ即チ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想
シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協
同シ益ク朕カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業
ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ
分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

特
34又

大日本帝國憲法

參照頭 帝國法典全書

福井淳編纂

◎大日本帝國憲法

明治二十二年二月十一日 發布

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ
惠撫慈養シ給ヘシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメ
ム事ヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ即チ明治十
四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及
臣民及臣民ノ子孫タルモノヲシテ永遠ニ遵行スル所ヲ知ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將
來此憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フ事ヲ愆ラサルヘシ
朕ハ我臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於
テ其享有テ完全ナラシムヘキ事ヲ宣告ス
帝國議會ハ明治廿三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此憲法ヲシテ有効ナラ
シムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜チ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統
ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ
議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ル事ヲ得サルヘシ
朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲メニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ

●憲法

臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサル時ハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ事ヲ公布スヘシ
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スル事ヲ得ス
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其條項ニ依ル
- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

- 第十五條 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十六條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
- 第十七條 天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命ス
- 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
- 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就ク事ヲ得
- 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
- 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス
- 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス
- 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クル事ナシ
- 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ恣ハルノ事ナシ
- 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレノ事ナシ
- 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルノ事ナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルハコトナシ
 公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ル所ニ依ル
 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ
 信教ノ自由ヲ有ス
 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及ヒ結社ノ自由ヲ有
 ス
 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲ス事
 ナ得
 第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行
 ナ妨クル事ナシ
 第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り
 軍人ニ準行ス
 第三章 帝國議會
 第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス
 第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ
 以テ組織ス
 第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス
 第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タル事ヲ得ス
 第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス
 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スル事ヲ
 得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコ
 トヲ得ス
 第四十條 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付キ各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スル事
 ナ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス
 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
 第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之
 ナ延長スル事アルヘシ
 第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ臨時會ノ
 會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル
 第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
 衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシ
 第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散
 ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ
 第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開
 キ議決ヲナス事ヲ得ス
 第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ
 依ル
 第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト
 ナス事ヲ得
 第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スル事ヲ得
 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クル事ヲ得

第五十一條 兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムル事ヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及評決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フ事ナシ但シ議員自カラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタル時ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、事ナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スル事ヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副書ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、事ナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アル時ハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムル事ヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル規定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカササル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト具ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則
第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ
此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ在サレハ改正ノ議決ヲナスコトヲ得ス
第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス
皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス
第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヒタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セザ

ル現行ノ法令ハ總テ違由ノ効力ヲ有ス
歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

◎參照法令

詔 勅 明治二十三年 二月二十七日

朕嚮ニ公布セシムル所ノ貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未タ一般ノ地方制度ヲ準行セサル北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ効力ヲ及ホサス

貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各々左ノ員數ヲ選舉スヘシ
伯爵 十五人
子爵 七十人
男爵 二十人

御名 御璽

朕法例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第九十七號 明治二十三年 十月六日

法例

●憲法△參照法令

第一條 法律ハ公布アリタル日ヨリ滿二十日ノ後ハ之ヲ遵守ス可キモノトス但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二條 法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セス

第三條 人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ニ從フ

親屬ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テモ亦同シ

第四條 動産、不動産ハ其所在地ノ法律ニ從フ

然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フ

第五條 外國ニ於テ爲シタル合意ニ付テハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ何レノ國ノ法律ヲ適用ス可キヤヲ定ム

當事者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ同國人ナルトキハ其本國法ヲ適用シ又同國人ニ非サルトキハ事實上合意ニ最大ノ關係ヲ有スル地ノ法律ヲ適用ス

第六條 外國人カ日本ニ於テ日本人ト合意ヲ爲ストキハ外國人ノ能力ニ付テハ其本國法ト日本法トノ中ニテ合意ノ成立ニ最モ有益ナル法律ヲ適用ス

第七條 不當ノ利得、不正ノ損害及ヒ法律上ノ管理ハ其原因ノ生シタル地ノ法律ニ從フ

第八條 本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限ヲモ有セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ從フ若シ住所知レサルトキハ其居所ノ法律ニ從フ

日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ日本法律ニ從ヒ又二箇以上ノ外國國民分限ヲ有スル者ハ最後ニ之ヲ取得シタル國ノ法律ニ從フ

第九條 公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ但一人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ其本國法ニ從フコトヲ得

第十條 要式ノ合意又ハ行爲ト雖モ之ヲ爲ス國ノ方式ニ從フトキハ方式上右効トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脱シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條 外國ニ於テ其國ノ方式ニ依リテ作リタル證書ハ不動産物權ヲ移轉スル行爲ニ係ルトキハ其不動産所在地ノ地方裁判所長又他ノ行爲ニ係ルトキハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其證書ノ適法ナルコトヲ檢認シタル上ニ非サレハ日本ニ於テ其效用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第十二條 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ方式ハ不動産ニ係ルトキハ其所在地ノ法律、他ノ場合ニ於テハ其原因ノ生シタル國ノ法律ニ從フ

第十三條 訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

裁判及ヒ合意ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

第十四條 刑法其他公法ノ事項ニ關シ及ヒ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スルトキハ行爲ノ地、當事者ノ國民分限及ヒ財産ノ性質ノ如何ヲ問ハズ日本法律ヲ適用ス

第十五條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ抵觸シ又ハ其適用ヲ免カレントスル合意又ハ行爲ハ不成立トス

第十六條 身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免カル、合意又ハ行爲ハ無効トス

第十七條 判事ハ法律ニ不明、不備又ハ欠缺アルヲ口實トシテ裁判ヲ爲スヲ拒絕スルコトヲ得ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各、本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

●憲法△參照法令

法律第貳號 明治二十二年
二月二十一日

議院法

- 第一章 帝國議會ノ召集成立及開會
- 第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ
- 第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
- 第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ
- 議長副議長ノ勅任セラルハマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ
- 第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ
- 第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ
- 第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ
- 第二章 議長書記官及經費
- 第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス
- 第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル
- 第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル
- 第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

- 第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス
- 第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ豫ニ預カラス
- 第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス
- 第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ
- 第十五條 各議院ノ議長副議長ニ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルハマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ
- 第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク
- 書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス
- 第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス
- 書記官ノ外他ノ必要ナル議員ハ書記官長之ヲ任ス
- 第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス
- 第三章 議長副議長及議員歳費
- 第十九條 各議院ノ議長ハ經費トシテ四千圓副議長二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス
- 議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス
- 官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス
- 第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特任委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ撰舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ撰舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期毎ニ開會ノ始ニ於テ之ヲ撰舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得

但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ審議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ハ爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ
 第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍
 聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ
 第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス
 第八章 豫算案ノ議定
 第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ
 受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ
 第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上
 ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス
 第九章 國務大臣及政府委員
 第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之ヲ爲ニ
 議員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス
 第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タ
 リトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
 第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得
 第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數
 ニ預カラス
 第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國
 務大臣及政府委員ニ報知スヘシ
 第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及
 政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成
 者アルヲ要ス
 質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ
 第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辨ヲ爲シ又ハ答
 辨スヘキ期日ヲ定メ若答辨ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ
 第五十條 國務大臣ノ答辨ヲ得又ハ答辨ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建
 議ノ動議ヲ爲スコトヲ得
 第十一章 上奏及建議
 第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁
 見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得
 各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ提出スヘシ
 第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ
 議題ト爲スコトヲ得ス
 第十二章 兩議院關係
 第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜
 ニ依ル
 第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議
 院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議員ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ
 奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
 乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘ
 シ

憲法△參照法令

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ撰舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩院協議委員ニ於テ各一員ヲ互撰シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議員ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メシレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用フヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若クハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判所ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

憲法△參照法令

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會行復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ撰擧法ニ記載シタル被撰ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當撰訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議員ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ因員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務

大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持センカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ユルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ沙リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

憲法△參照法令

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權チ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯チ審査スル爲ニ懲罰委員チ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議チ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分チ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭チ表セシム

三 一定ノ時間出席チ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數チ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者チ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成チ以テ懲罰ノ動議チ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應

セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請假

ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀チ發シ其ノ招狀チ受ケタル後一週間内

ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席チ停止シ上奏シテ勅裁チ請フ

ヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢チ經テ衆議院議員選舉法及附錄チ裁可シ之ヲ公布セシメ併ヒテ帝

國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉チ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第三號 明治二十二年 二月十一日

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉

區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附錄チ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ

命シ選舉長トラシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長チシテ其ノ選舉長ト

ラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅チ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格チ備フルコトヲ要ス

第一 日本人民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居

シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以

上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

憲法△參照法令

但シ所得税ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財産主ノ納税額ヲ以テ其ノ納税資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本人民ノ男子滿三十歳以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國税十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得税ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收税官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スベキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負責ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權ノ被選舉權及停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國税ノ總額並ニ納税地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニヨリ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

●憲法△參照法令

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルト
 キハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿
 ナ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地
 ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ
 管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ
 一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副
 本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選
 舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ
 發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縱覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正
 ナ求ムルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申
 立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判
 定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ
 區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ必
 要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日

以內ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被
 告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告
 トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘
 ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ
 上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ
 据置クヘシ但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受
 取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村
 長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セザレタル
 トキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長
 之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ
 數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管
 理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以

憲法△參照法令

上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一一定ノ式ヲ用キ選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由チ告ク投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル嶋嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由チ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲グル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シヌ

憲法△參照法令

ル者ハ此ノ限ニ在ラス
 二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
 三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ
 四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人日中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス
 五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス
 六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位ヲ職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニアラス
 第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ問キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第五十三條 無効ノ選舉ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ
 第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ越エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ
 連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ
 第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ
 第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限

ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ
 第五十七條 選舉長ハ撰舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ
 第九章 當選人
 第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス
 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ
 第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ
 第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ
 第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ
 第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ
 第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ
 第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管

憲法△參照法令

内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セシレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服

ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無功トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得
其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

●憲法△參照法令

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判官證書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ
第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得
第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル
第十三章 罰則

第八十九條 納税額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス
其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ攜帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當撰ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコト

憲法ニ參照法令

トテ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票書及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ二市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第一百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ト併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第一百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第一百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ

戸長之ヲ掌ルヘシ

第一百十條 撰舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第一百一十條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

東京府 議員總數十二人

第一區 麴町區麻布區赤坂區一人

第二區 芝區一人

第三區 京橋區一人

第四區 日本橋區一人

第五區 本所區深川區一人

第六區 淺草區一人

第七區 神田區一人

第八區 下谷區本郷區一人

第九區 小石川區牛込區四谷區一人

第十區 東多摩郡南豐島郡北豐島郡一人

第十一區 南足立郡南葛飾郡一人

第十二區 荏原郡伊豆七島一人

京都府 議員總數七人

第一區 上京區一人

憲法△參照法令

第二區 下京區一人
 第三區 愛宕郡葛野郡乙訓郡紀伊郡一人
 第四區 宇治郡久世郡相樂郡綴喜郡一人
 第五區 南桑田郡北桑田郡船井郡天田郡何鹿郡二人
 第六區 加佐郡與謝郡中郡竹野郡熊野郡一人
 大阪府 議員總數十人

第一區 西區一人
 第二區 東區北區一人
 第三區 南區一人
 第四區 西成郡東成郡住吉郡二人
 第五區 島上郡島下郡豐島郡能勢郡一人
 第六區 茨田郡交野郡讀良郡河內郡若江郡高安郡一人
 第七區 石川郡八上郡古市郡安宿郡錦郡丹南郡志紀郡丹北郡大縣郡澁川郡一人
 第八區 堺區大鳥郡泉郡一人
 第九區 南郡日根郡一人
 神奈川縣 議員總數七人
 第一區 橫濱區一人
 第二區 久良岐郡梶樹郡都筑郡一人
 第三區 南多摩郡西多摩郡北多摩郡二人
 第四區 三浦郡鎌倉郡一人
 第五區 高座郡愛甲郡津久井郡一人
 第六區 大住郡海老郡足柄上郡足柄下郡一人

兵庫縣 議員總數十二人

第一區 神戸區一人
 第二區 武庫郡菟原郡川邊郡有馬郡一人
 第三區 多紀郡氷上郡一人
 第四區 八郡郡明石美嚮郡一人
 第五區 加古郡印南郡一人
 第六區 加東郡多可郡加西郡一人
 第七區 飾東郡飾西郡神東郡神西郡一人
 第八區 揖東郡揖西郡赤穂郡佐用郡宍粟郡二人
 第九區 城崎郡美合郡氣多郡出石郡七美郡二方郡養父郡朝來郡二人
 第十區 津名郡三原郡一人
 長崎縣 議員總數七人

第一區 長崎區西彼杵郡二人
 第二區 東彼杵郡北高來郡一人
 第三區 南高來郡一人
 第四區 北松浦郡壹岐郡石田郡一人
 第五區 南松浦郡一人
 第六區 上縣郡下縣郡一人
 新潟縣 議員總數十三人
 第一區 新潟區西蒲原郡一人
 第二區 北蒲原郡東蒲原郡巖船郡二人
 第三區 中蒲原郡一人

憲法△參照法令

第四區 南蒲原郡一人
 第五區 古志郡三島郡二人
 第六區 刈羽郡一人
 第七區 北魚沼郡南魚沼郡中魚沼郡東頸城郡二人
 第八區 中頸城郡西頸城郡二人
 第九區 雜太郡加茂郡羽茂郡一人
 埼玉縣 議員總數八人
 第一區 北足立郡新坐郡一人
 第二區 入間郡高麗郡橫見郡比企郡二人
 第三區 南埼玉郡北葛飾郡中葛飾郡二人
 第四區 北埼玉郡大里郡幡羅郡榛澤郡男衾郡二人
 第五區 兒玉郡賀美郡那珂郡秩父郡一人
 群馬縣 議員總數五人
 第一區 東群馬郡南勢多郡利根郡北勢多郡一人
 第二區 新田郡山田郡邑樂郡一人
 第三區 佐位郡那波郡綠野郡多胡郡南甘樂郡一人
 第四區 西群馬郡片岡郡吾妻郡一人
 第五區 北甘樂郡碓氷郡一人
 千葉縣 議員總數九人
 第一區 千葉郡市原郡一人
 第二區 東葛飾郡印旛郡下埴生郡南相馬郡二人
 第三區 香取郡一人

第四區 海上郡匝屋郡一人
 第五區 山邊郡武射郡一人
 第六區 夷隅郡上埴生郡長柄郡一人
 第七區 望陀郡周准郡天羽郡一人
 第八區 安房郡平郡朝夷郡長狹郡一人
 茨城縣 議員總數八人
 第一區 東茨城郡鹿島郡行方郡二人
 第二區 多賀郡久慈郡那珂郡二人
 第三區 西茨城郡真壁郡一人
 第四區 豐田郡結城郡岡田郡西葛飾郡猿島郡一人
 第五區 筑波郡新治郡一人
 第六區 信太郡河內郡北相馬郡一人
 栃木縣 議員總數五人
 第一區 河內郡芳賀郡一人
 第二區 上都賀郡下都賀郡寒川郡二人
 第三區 安蘇郡足利郡梁田郡一人
 第四區 鹽谷郡那須郡一人
 奈良縣 議員總數四人
 第一區 添上郡添下郡山邊郡廣瀨郡平群郡一人
 第二區 式上郡式下郡宇陀郡十市郡高市郡葛上郡葛下郡忍海郡二人
 第三區 宇智郡吉野郡一人
 三重縣 議員總數七人

●憲法△參照法令

- 第一區 安濃郡一志郡一人
- 第二區 三重郡鈴鹿郡奄藝郡河曲郡一人
- 第三區 桑名郡員辨郡朝明郡一人
- 第四區 飯高郡飯野郡多氣郡一人
- 第五區 度會郡答志郡英虞郡北牟婁郡南牟婁郡二人
- 第六區 阿拜郡山田郡名張郡伊賀郡一人
- 愛知縣 議員總數十一人
- 第一區 名古屋區一人
- 第二區 愛知郡一人
- 第三區 東春日井郡西春日井郡一人
- 第四區 丹羽郡葉栗郡一人
- 第五區 中島郡一人
- 第六區 海東郡海西郡一人
- 第七區 知多郡一人
- 第八區 碧海郡幡豆郡一人
- 第九區 額田郡西加茂郡東加茂郡一人
- 第十區 北設樂郡南設樂郡寶飯郡一人
- 第十一區 渥美郡八名郡一人
- 靜岡縣 議員總數八人
- 第一區 安倍郡有渡郡一人
- 第二區 富士郡庵原郡一人
- 第三區 志太郡益津郡一人

- 第四區 榛原郡佐野郡城東郡一人
- 第五區 周智郡豐田郡山名郡磐田郡一人
- 第六區 長上郡敷知郡濱名郡引佐郡龜玉郡一人
- 第七區 那賀郡賀茂郡君澤郡田方郡駿東郡二人
- 山梨縣 議員總數三人
- 第一區 西山梨郡北巨摩郡中巨摩郡一人
- 第二區 東山梨郡南都留郡北都留郡一人
- 第三區 東八代郡西八代郡南巨摩郡一人
- 滋賀縣 議員總數五人
- 第一區 滋賀郡高島郡一人
- 第二區 甲賀郡野洲郡栗太郡一人
- 第三區 犬上郡愛知郡神崎郡蒲生郡二人
- 第四區 西淺井郡東淺井郡伊香郡阪田郡一人
- 岐阜縣 議員總數七人
- 第一區 厚見郡方縣郡各務郡一人
- 第二區 不破郡安八郡一人
- 第三區 海西郡下石津郡多藝郡上石津郡羽栗郡中島郡一人
- 第四區 大野郡池田郡本巢郡席田郡山縣郡一人
- 第五區 武儀郡郡上郡一人
- 第六區 加茂郡可兒郡土岐郡惠那郡一人
- 第七區 大野郡益田郡吉城郡一人
- 長野縣 議員總數八人

●憲法△參照法令

- 第一區 上水內郡更級郡一人
 - 第二區 下水內郡上高井郡下高井郡一人
 - 第三區 小縣郡植科郡一人
 - 第四區 西筑摩郡東筑摩郡南安曇郡北安曇郡二人
 - 第五區 南佐久郡北佐久郡一人
 - 第六區 上伊那郡諏訪郡一人
 - 第七區 下伊那郡一人
- 宮城縣 議員總數五人
- 第一區 仙臺區名取郡宮城郡一人
 - 第二區 柴田郡刈田郡伊具郡亙理郡一人
 - 第三區 黒川郡加美郡志田郡玉造郡遠田郡一人
 - 第四區 栗原郡登米郡一人
 - 第五區 桃生郡牡鹿郡本吉郡一人
- 福島縣 議員總數七人
- 第一區 信夫郡伊達郡一人
 - 第二區 安達郡安積郡一人
 - 第三區 田村郡巖瀬郡東白河郡西白河郡石川郡二人
 - 第四區 南會津郡北會津郡大沼郡耶麻郡河沼郡二人
 - 第五區 菊多郡磐前郡磐城郡檜葉郡標葉郡行方郡宇多郡一人
- 巖手縣 議員總數五人
- 第一區 南巖手郡北巖手郡紫波郡二戸郡一人
 - 第二區 東閉伊郡中閉伊郡北閉伊郡南九戸郡北九戸郡一人

- 第三區 稗貫郡東和賀郡西和賀郡西閉伊郡南閉伊郡一人
 - 第四區 江刺郡磐澤郡氣仙郡一人
 - 第五區 西磐井郡東磐井郡一人
- 青森縣 議員總數四人
- 第一區 東津輕郡上北郡下北郡三戸郡二人
 - 第二區 北津輕郡南津輕郡一人
 - 第三區 中津輕郡西津輕郡一人
- 山形縣 議員總數六人
- 第一區 南村山郡東村山郡西村山郡二人
 - 第二區 東置賜郡南置賜郡西置賜郡一人
 - 第三區 飽海郡西田川郡東田川郡二人
 - 第四區 最上郡北村山郡一人
- 秋田縣 議員總數五人
- 第一區 南秋田郡一人
 - 第二區 山本郡北秋田郡鹿角郡一人
 - 第三區 河邊郡由利郡一人
 - 第四區 仙北郡平鹿郡雄勝郡二人
- 福井縣 議員總數四人
- 第一區 足羽郡大野郡一人
 - 第二區 吉田郡阪井郡一人
 - 第三區 南條郡今立郡丹生郡一人
 - 第四區 三方郡遠敷郡大飯郡敦賀郡一人

●憲法△參照法令

石川縣 議員總數六人
 第一區 金澤區石川郡二人
 第二區 能美郡江沼郡一人
 第三區 河北郡羽咋郡鹿島郡二人
 第四區 鳳至郡珠洲郡一人
 富山縣 議員總數五人
 第一區 上新川郡婦負郡二人
 第二區 下新川郡一人
 第三區 射水郡一人
 第四區 礪波郡一人
 鳥取縣 議員總數三人
 第一區 邑美郡法美郡巖井郡八上郡八東郡智頭郡一人
 第二區 高草郡氣多郡河村郡久米郡八橋郡一人
 第三區 汗入郡會見郡日野郡一人
 島根縣 議員總數六人
 第一區 島根郡秋鹿郡意宇郡一人
 第二區 能美郡仁多郡大原郡飯石郡一人
 第三區 出雲郡精進郡神門郡一人
 第四區 邇摩郡安濃郡邑智郡一人
 第五區 那賀郡美濃郡鹿足郡一人
 第六區 周吉郡稔地郡海士郡知夫郡一人
 岡山縣 議員總數八人

第一區 岡山區御野郡上道郡邑久郡兒島郡二人
 第二區 津高郡赤阪郡磐梨郡和氣郡一人
 第三區 都宇郡窪屋郡賀陽郡下道郡一人
 第四區 淺口郡小田郡後月郡一人
 第五區 上房郡川上郡哲多郡阿賀郡一人
 第六區 真島郡大庭郡西條郡西北條郡東南條郡東北條郡一人
 第七區 勝北郡勝南郡吉野郡英田郡久米北條郡久米南條郡一人
 廣島縣 議員總數十人
 第一區 廣島區安藝郡二人
 第二區 佐伯郡一人
 第三區 沼田郡高宮郡山縣郡一人
 第四區 高田郡三次郡三谿郡一人
 第五區 加茂郡一人
 第六區 豐田郡一人
 第七區 御調郡世羅郡一人
 第八區 深津郡沼隈郡安那郡一人
 第九區 蘆田郡品治郡神石郡甲奴郡奴可郡三上郡蘇志郡一人
 山口縣 議員總數七人
 第一區 吉敷郡美郡厚禰郡佐波郡二人
 第二區 阿武郡見島郡大津郡一人
 第三區 赤間關區豐浦郡一人
 第四區 都濃郡熊毛郡大鳴郡二人

●憲法△參照法令

第五區 玖珂郡一人
 和歌山縣 議員總數八
 第一區 和歌山區名草郡海部郡有田郡二人
 第二區 伊都郡那賀郡一人
 第三區 日高郡西牟婁郡東牟婁郡二人
 德島縣 議員總數五人
 第一區 名東郡勝浦郡一人
 第二區 那賀郡海部郡一人
 第三區 名西郡阿波郡麻植郡一人
 第四區 板野郡一人
 第五區 美馬郡三好郡一人
 香川縣 議員總數五人
 第一區 香川郡山田郡小豆郡一人
 第二區 大內郡塞川郡三木郡一人
 第三區 鵜足郡阿野郡一人
 第四區 多度郡那珂郡一人
 第五區 豐田郡三野郡一人
 愛媛縣 議員總數七人
 第一區 溫泉郡和氣郡風早郡野間郡久米郡伊豫郡下浮穴郡二人
 第二區 越智郡桑村郡周布郡一人
 第三區 喜多郡上浮穴郡一人
 第四區 新居郡宇摩郡一人

第五區 西宇和郡東宇和郡一人
 第六區 南宇和郡北宇和郡一人
 高知縣 議員總數四人
 第一區 土佐郡長岡郡一人
 第二區 幡多郡高岡郡吾川郡二人
 第三區 香美郡安藝郡一人
 福岡縣 議員總數九人
 第一區 福岡區怡土郡志摩郡早良郡一人
 第二區 糟屋郡宗像郡那珂郡御笠郡席田郡上座郡下座郡夜須郡二人
 第三區 遠賀郡鞍手郡喜麻郡穂波郡一人
 第四區 御井郡御原郡山本郡生葉郡竹野郡一人
 第五區 三潞郡上妻郡下妻郡一人
 第六區 山門郡三池郡一人
 第七區 企救郡田川郡一人
 第八區 京都郡仲津郡築城郡上毛郡一人
 大分縣 議員總數六人
 第一區 大分郡一人
 第二區 北海部郡南海部郡一人
 第三區 大野郡直入郡一人
 第四區 速見郡玖珠郡日田郡一人
 第五區 西國東郡東國東郡一人
 第六區 下毛郡宇佐郡一人

●憲法△參照法令

佐賀縣 議員總數四人

第一區 佐賀郡神崎郡小城郡基肆郡養父郡三根郡二人

第二區 東松浦郡西松浦郡一人

第三區 杵島郡藤津郡一人

熊本縣 議員總數八人

第一區 熊本區飽田郡託麻郡宇土郡二人

第二區 玉名郡一人

第三區 山鹿郡山本郡菊池郡合志郡阿蘇郡二人

第四區 上益城郡下益城郡一人

第五區 八代郡葦北郡球磨郡一人

第六區 天草郡一人

宮崎縣 議員總數三人

第一區 宮崎郡北那珂郡南那珂郡兒湯郡一人

第二區 北諸縣郡西諸縣郡東諸縣郡一人

第三區 東臼杵郡西臼杵郡一人

鹿兒島縣 議員總數七人

第一區 鹿兒島郡谿山郡北大隅郡熊毛郡馭謨郡一人

第二區 給黎郡揖宿郡額姓郡川邊郡一人

第三區 日置郡阿多郡一人

第四區 高城郡出水郡南伊佐郡薩摩郡甌島郡一人

第五區 菱刈郡始良郡桑原郡鴨嶽郡北伊佐郡一人

第六區 南諸縣郡大隅郡南肝屬郡東嶺嶽郡一人

第七區 大島郡一人

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第四號 明治二十二年 二月十一日

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ収納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

憲法ニ參照法令

第一 各省ノ豫定經費要求書但ノ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ
第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書
第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金
第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカテサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス
第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ
法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコト

ヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス
第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

- 第一 國債ノ元利拂
- 第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費
- 第三 在外各處ノ經費
- 第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
- 第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
- 第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ
- 第七 塲所ノ一定セサル事務所ノ經費
- 第八 各處ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテテ限ル

第五章 決算

第十六條 會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

- 歳入ノ部
- 歳入豫算額
- 調定濟歳入額
- 收入濟歳入額

憲法△參照法令

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲ササルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其義務ヲ免ルルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ルルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリ

シモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ナ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡預算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入又ハ借入ルルトキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及器械ヲ買入ルルトキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
 第九 軍艦ヲ買入ルルトキ
 第十 軍馬ヲ買入ルルトキ
 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルルトキ
 第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルルトキ
 第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルルトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルルトキ
 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒製造物品ヲ賣拂フトキ
 第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス
 第九章 出納官吏
 第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ
 第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實ヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
 第二十八條 現金又ハ物品ノ納出ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ據準ノ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
 第十一章 附則
 第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國會議開會ノ時ヨリ施行ス
 決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス
 第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各々其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス
 朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二十八號

明治二十二年十一月七日

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加フタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月

憲法△參照法令

以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其ノ公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

朕衆議院議員撰舉法罰則補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第四十號 明治二十三年五月二十九日

衆議院議員選舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲馬車ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス
 第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス
 本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議

員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鑼鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル
 第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百四條ノ例ニ依ル

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第四十八號 明治二十三年六月二十八日

行政裁判法

第一章 行政裁判所組織
 第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク
 第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●憲法△參照法令

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ委任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルルモノトス書記ハ長官之ヲ判任トス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席會議ヲ要ス但列

席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評定及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二 裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ説明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴

願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政
 訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス
 第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス
 第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス
 行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ
 於テ之ヲ裁判ス
 第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑スルコトヲ得
 第三章 行政訴訟手續
 第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル
 日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ
 得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス
 訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變
 ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス
 第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ
 裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ
 必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
 第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ
 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢
 二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告
 三 要求ノ事件及其理由
 四 立證
 五 年月日
 訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ
 第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ
 第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ
 提起スヘカテサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ
 付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ
 其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付ス
 ヘシ
 第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當
 ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ
 答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ
 第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互
 ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ
 第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ被告交互ニ送付スル代
 リニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得
 第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハ
 ラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

憲法△參照法令

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ
 訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得
 代理人ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ
 第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ
 審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ
 原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テ
 ハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得
 第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ
 審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ
 原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ点ニ就キ文書ニ盡ササル所ヲ補足シ又ハ誤
 謬ヲ更正シ若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得
 第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ
 審廷ニ差出スコトヲ得
 行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ
 第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス
 安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政官廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決
 議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得
 第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ宣渡
 ス
 第三十八條 行政裁判所原告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證
 人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
 證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟

ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡ササル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自シ之
 ヲ判決ス
 行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若ノハ通常裁
 判所又ハ行政官廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得
 第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通
 常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得
 第四十條 審問手續ニ關スル申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス
 第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三條出廷セサルコトアルモ
 行政裁判所ハ其審判中止ヲセス
 原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲
 スコトヲ得
 第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其原本ニ
 行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ
 行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス
 第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ
 依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得
 第四章 附則
 第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス
 第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ
 之ヲ裁定ス
 裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
 第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

憲法△參照法令

第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第五十七號

明治二十三年八月二日

會計法補則

第一條 明治二十三年年度出豫算中左ノ費目ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歳出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
 - 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
 - 三 賞勳年金及褒賞費
 - 四 外國條約及約束ニ依レル支出
 - 五 各廳ノ廳費及經常修繕費
- 第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歳出トス

- 一 帝國議會經費
 - 二 裁判所並會計検査院經費
 - 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
 - 四 徵兵費
 - 五 徵稅費
- 證券印紙切手類製造買戻押印費蓋札製造費所得稅別充委員手當市町村ニ付スル徵稅費市町費分設臨時物件買上費

- 六 円符費
 - 七 遞信事業及航路標識費
 - 八 内外國難破船費
 - 九 沖繩縣及小笠原島地方費
 - 十 備荒儲蓄
 - 十一 北海道拂下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歳出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歳出上ノ義務トス
- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當
 - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費
 - 十 預金利子
 - 十一 既約アル地所家屋借料

●憲法△參照法令

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

朕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八十五號

明治二十三年九月十九日

第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選舉ハ仍ホ従前ノ區域ニ依ル

第二條 郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若クハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ増減セス其ノ補缺選舉ヲ行フヘキトキハ仍ホ従前ノ區域ニ依ル

第三條 府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歳入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ従前府縣會議決ノ効ヲ存ス

第四條 東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス

第五條 東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス

第六條 郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ豫算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條 府縣制郡制施行ノ後府縣參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

朕行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第百六號

明治二十三年十月九日

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

憲法△參照法令

勅令第十一號 明治二十三年 二月十一日

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額

勅令第四十一號
明治二十三年三月二十六日參

ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ右條議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ

貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ
除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラレタルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

朕衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十一號 明治二十二年 三月二十八日

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ
地 租

●憲法△參照法令

所得稅

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十號 明治二十二年 四月三十日

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據

リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲グル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年

度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度八月三十一日限リトス

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較テ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尚ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由

計算ノ基ク示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

●憲法△參照法令

第三節 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定セントスルトキハ其更定ヲ要スル金額理由ヲ詳具スル所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲グル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル区分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

憲法△參照法令

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ收入ノ目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付スヘシ

第二十八條 第二十六條ノ拂込ニ對シ金庫ヨリ交付シタル領收證ハ收入官吏ヨリ歳入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ送付シ別符ヲ切離セシメ其檢印ヲ受クヘシ

第二十九條 納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ直接ニ金庫ニ納付シタトキハ收入官吏ハ金庫ヨリ納人ニ交付シタル領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納人ニ返付スヘシ

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ

參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

トナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號、支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給諸給恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ストキ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ交付スヘシ

第三十六條 會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ「調定済」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人 仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ムルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラス仕拂命令ヲ發スヘキコトヲ命スルトキハ會計主務官ハ仕拂命令ニ特命調定ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕拂命令ノ金額若シ仕拂豫算額ニ超過スルトキハ本屬大臣ノ特命ヲ受クト雖モ尙ホ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ但第三十六條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ

於テモ亦同シ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ
但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於

テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎

月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ区分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日迄ニ各省豫定經費要求書ト同一ノ区分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ区分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遲延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遲延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル区分、年度、支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承

認テ終タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ
第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ像備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 戻入ルヘキ金額
- 第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付
- 第三 前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額、年度、科目、番號、日付
- 第四 戻入ノ事由

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ檢査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

- 第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上
- 第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 競争入札ニ付スル事項
- 第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名
- 第三 競争執行ノ場所日限及時刻
- 第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

●憲法△參照法令

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フハ

シ 入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲グヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約
第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第一 設計仕譯書ノ末ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ

第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタルトキ其代理官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限ニアラス

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り謄憑書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨリ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金額ハ毎年

三月三十一日若クハ該官吏轉死死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ預收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ施行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受ケル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ預收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書二通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ預收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五箇月以内又收入官吏ハ毎年度經過後七箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ其所屬省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ

第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ預收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ預收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經

過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査書ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第三百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第三百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ
身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受ケヘシ

第三百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第三百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第三百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第三百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第三百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職

若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ其期限ヲ違キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第三百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役
第三百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿
第三百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第三百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第三百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ区分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ
第三百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ区分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ
第三百十六條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ区分シ仕拂豫算額、仕拂命令

憲法△參照法令

調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十七條 各省中央會計主務官ハ歲出簿ヲ備ヘ歲出ノ科目ヲ區分シ歲出豫算額仕

拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金

出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ

大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出

納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ

之ヲ定ムヘシ

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲グル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣

之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

本規則ト牴觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選舉規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ
勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

勅令第七十八號

明治二十三年
六月四日

貴族院伯子男爵議員選舉規則

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各、其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權

ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之

ヲ指定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名

簿ヲ各別ニ調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選

舉管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘ

シ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各、一人ノ選舉管理者ヲ互選シ

テ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各、其ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定

シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

●憲法△參照法令

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ
 投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ
 第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證據ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ
 第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス
 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ
 第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ
 第十六條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ
 補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ
 第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
 第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス
 第十九條 選舉ニ關スル費用ハ同等者ノ支辨タルヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

○(勅令第七十九號) 明治二十二年六月四日

貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ
 第二條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス
 第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス
 第四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ互選人タルコトヲ得ス
 一 瘋癲白癡ノ者
 二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
 三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者
 第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ
 第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人

● 法律ニ參照シ令

タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セラルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理

ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人

ニ通知書ヲ發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書

又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ

告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス

第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ

當選人トスヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉ノ顛末ヲ錄シ

テ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺

印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

憲法△參照法令

第二十四條 議員ニ議員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ刺旨ヲニテ補選
 ナ行フヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ
 補選選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ
 第二十五條 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
 第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内ト
 ス

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十四號

明治二十二年
 六月十一日

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ
 他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル
 第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ
 至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
 第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
 第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス
 第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ
 第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ
 物品ヲ出納スルコトヲ得ス
 第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シヨルトキハ辨

償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀
 損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコト
 ヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ル
 コトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免
 ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルハ
 出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ
 物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書
 ナ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省
 大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ
 實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調書ニハ檢査官吏及檢査ヲ受タル物品會計官吏若ハ
 特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 各省大臣ハ一般ノ會計規則ニ據ルモノト特別ノ會計規則ニ據ルモノトヲ
 區分シ毎年度間ニ買入生産及其ノ他政府ノ所有ニ歸シタル物品ト消耗賣拂亡失毀
 損又ハ生産ノ爲メニ消費シ其ノ他政府ノ離權シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル報

●憲法△參照法令

告書ヲ調製シ年度後六箇月以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ但シ官有財産管理規則ニ據リ送付スル計算書ニ掲グルモノヲ除ク

第十五條 物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本廳大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添付シテ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計檢査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十五號 明治二十二年七月二日

會計年度開始前現金支出規則

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 大藏大臣前條ノ計算書ヲ檢視シ現金前渡ヲ正當ト認メタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三條 前各條ニ定メタルモノノ外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

朕衆議院議員選舉法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三號 明治二十三年一月九日

衆議院議員選舉法施行規則

第一條 選舉人ノ年齢ハ選舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歳ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條 選舉法第六條第二ニ掲グル住居ノ期限内ニ選舉人其ノ住居ヲ府縣外ニ移シ

●憲法△參照法令

再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラス其ノ期限中斷シタルモ
ノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラス

第三條 選舉人及被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選舉人名簿調製期日(四月一日)
ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納
ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納
メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ
日ニ依ルヘシ

滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併セ十
五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納
額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條 質入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各箇ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地家帳又ハ
附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ

第六條 被選人ノ年齢ハ選舉期日ノ前滿三十歲ニ達スルヲ以テ合格トス
被選人家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ選舉法第七條ニ規定シタル選
舉人ノ例ニ同シ

第七條 警視廳ノ官吏ハ選舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被選人タルコトヲ
得ス

第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉ノ管
理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ
選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第九條 選舉法第十二條ニ掲ケタル神宮トハ神社ニ奉祀スルヲ聯トスル者、僧侶及
教師トハ教規若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハス宜敷
ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域
トス

選舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル
トキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルト
キハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町
村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其ノ市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 選舉人名簿ニハ選舉人ヲ其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ

第十二條 選舉人正當ノ事故ニ依リ選舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選
舉人名簿ニ登載セラレサルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコ
トヲ得

第十三條 選舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲ニ其
ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セス

第十四條 選舉人名簿確定ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ
投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シ
タル選舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遲クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各

選舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル選舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得
此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求ス
ルコトヲ得

入場券ニハ選舉人ノ住所姓名選舉人名簿ニ記載シタル番號及投票ノ場所日時ヲ記
載スヘシ

第十七條 選舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選舉人多數ナル
投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到着番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條 選舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者
ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ
對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若到著番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到着番
號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投
入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時
入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメ
タル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選舉法第四十八條ノ手
續ヲ爲シ逐次投票ヲ開放點檢シテ選舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選
人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選人ノ得點數ヲ朗讀
スヘシ

第二十五條 點檢済ノ投票ハ其ノ有効無効ヲ區別シテ封緘シ選舉長ハ選舉委員ト共
ニ之ニ捺印スヘシ

連名投票ニシテ其ノ一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第二十六條 天災若ハ其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ヌ又ハ
選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者又ハ選舉長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣
知事ニ其ノ由ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハ
シメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ遅クトモ五日以前ニ投票區域内又
ハ選舉区内ニ告示セシムヘシ

第二十七條 選舉法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ差ニ依テ當選ヲ得タル
者其ノ當選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限内ニ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ
差ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第二十八條 選舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限ハ第六十條ニ依リ當選人ノ姓
名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條 選舉法第五十二條ノ選舉長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ
投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ選舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 選舉長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ
其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

朕國債ニ關スル仕拂及收入令決算ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十號 明治二十三年三月六日

第一條 會計法第十五條第二項ニ依リ國債元利金仕拂ノ爲メ銀行ニ現金ノ前渡ヲ爲シタルトキハ會計規則第九十八條ニ準シ銀行ヲシテ其仕拂ヲ會計検査院ニ證明セシムヘシ

第二條 法律命令ニ依リ日本銀行ヲシテ國債ノ募集又ハ借入ヲ取扱ハシムルトキハ日本銀行ハ大藏大臣定ムル所ノ期限ニ出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第三條 大藏省國債局長ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

朕政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十五號 明治二十三年三月二十日

政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章及第九章中現金ヲ領收スル收入官吏ニ關スル各條ニ準據ス

朕行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令百一十一號 明治二十三年六月二十八日

第一條 行政裁判所評定官ノ定員八十一人トス

行政裁判所書記ノ定員八十五人トス

第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記録其他庶務ニ從事ス

第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ

審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百二十一號 明治二十三年七月十日

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長
書記官
試補
屬

十人
二人
二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル

●憲法△參照法令

事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス
第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百二十二號 明治二十三年 七月十日

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十人

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

御璽

勅令第百九十二號

明治二十三年 八月二十九日

行政裁判所處務規程

第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル

第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長タラシムルトキハ同法第七條

第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス

第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ

指命スルコトヲ得

第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ

書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認

ムルモノノ外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ茲ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ

爲スコトヲ得ス

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ

高キ者之ヲ代理ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ

通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發ス

ルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規

定ヲ設クルコトヲ得

憲法ハ參照法令

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

朕帝國議會初度ノ召集ニ際シ議院時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ必要ヲ認メ兩議院ノ爲ニ假ニ成立規則ヲ公布セシメ成立ノ際各議院ヲシテ遵依スル所アラシム

御名 御璽

勅令第二百二十號

明治二十三年
十月十日

貴族院成立規則

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充テタルトキハ議長ハ議長席ニ著スヘシ

第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其席次ハ宮中ノ列次ニ依ル每位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其席次ハ爵位次第二依ル其他ノ議員ノ席次ハ年齢ニ依リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ

第六條 部長ハ每會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ

其ノ量多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

量多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第十一條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及衆議院ニ通報スヘシ

衆議院成立規則

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人

名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充テタルトキハ書記官長ハ議員ヲ

シテ議長候補者ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ

第五條 議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ

名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ

後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條 投票終リタルトキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ

計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ

過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半数ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半数ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラルコトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ

書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條 議長ハ議長席ニ著キタルノ後書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部屬ヲ定ム

第十六條 議員ノ議席ハ每會期ニ之ヲ定メ各席ニ號數ヲ付ス

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由テ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充テタルハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由テ政府及貴族院ニ通報スヘシ

貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選舉ニ關ル事訟ヲ判決スルノ緊要ニ屬シ而シテ時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間効力ヲ有スヘシ

御名 御璽

勅令第二百二十一號

明治二十三年十月十日

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

- 第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審查スル爲ニ常任委員ヲ選舉スヘシ
- 第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ
- 第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作リ之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審查委員ニ付ス
- 第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立証ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ
- 第五條 資格審查委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ
- 委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス
- 第七條 資格審查委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得
- 第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルルノ事件ハ之ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス
- 第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ資格審查委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得
- 天災事變ニ因リ期日內ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條 資格審查委員ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後議院ニ付スヘシ

第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議院ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十四條 補闕議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

朕帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

憲法△參照法令

勅令第二百六十三號 明治二十三年 十月二十三日

帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則

- 第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歳費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月ヲ以テ一歳トシ計算ス
- 第二條 議長副議長及議員ノ歳費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス
- 第三條 議長副議長ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス
- 第四條 議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歳費ハ其勅任セラレタル前月分マテ支給ス
- 第五條 貴族院勅任議員ノ歳費ハ其勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス
- 第六條 貴族院勅任議員ノ歳費ハ其互選セラレタル當月分ヨリ支給ス
- 第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補缺議員ノ歳費ハ其選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス
- 第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキハ其ノ他如何ナル場合ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス
- 第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテ支給ス
- 第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

- 上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ歳費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス
- 第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス
- 第十二條 議院ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ支給セス
- 第十三條 瀛車旅行ハ一日二百哩詰瀛船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ日當ヲ支給ス但シ一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス
- 第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

瀛車 一哩ニ付	瀛船 一海里ニ付	車馬 一里ニ付	日當
拾錢	拾錢	參拾錢	貳圓五拾錢

閣令第十八號 明治二十二年 六月四日

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス
非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

憲法△參照法令

宮内省達第十二號 明治二十三年七月八日

貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者ハ宮内省中左ノ部局ノ職務ヲ兼メルコトヲ得ス

待從職

式部職

皇太后宮職

皇后宮職

東宮職

大膳職

主殿寮

主馬寮

主獵局

帝室會計審査局

皇族家職

内務省訓令第四十號 明治二十二年十月二十六日 警視廳 府 縣 集治監 假留監

會計規則第六十九條保證金額左ノ通相定ム

但實際ノ情況ニ由リ保證金額ヲ増加スルハ各應適宜タルヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十

内務省訓令第四十四號 明治二十二年十二月廿四日 警視廳 府 縣 集治監 假留監

會計規則第三十三條但書集合仕拂命令ニ添付スル各債主ノ金額氏名表左ノ通心得ヘ

集合命令第何號金額氏名表

(項) 何々

一金何圓

事由何々

内譯

一金何圓

一金何圓

一金何圓

一金何圓

計金何圓

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何名

内務省訓令第三號 明治二十三年一月十七日 府 縣 沖總縣 沖除ク

衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ

第一條 衆議院議員選舉法第十八條ノ選舉人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ依リ調製スヘ

憲法△參照法令

第二條 投票所管理者ハ遅クトモ投票期日ノ五日前に投票所ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ選舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ由リ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名スルヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時已ムヲ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選舉法施行規則第十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル選舉人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖投票所管理者ハ豫メ其當日指名セントスル者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前に參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラスムルヲ要ス

第四條 投票用紙、投票函、入場券、及到着番號札ハ別紙第二號第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ

第五條 投票所ハ寺院若クハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ

第六條 投票所ノ開閉ハ擊柝又ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ

投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ

第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選舉人員ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所、選舉人扣所、投票用紙、交付所、投票記載所、投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選舉人ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ選舉法第三十六條ニ依リ立會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ選舉人ニ示シ且選舉人ノ面前ニ於テ其第一蓋ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ

卓上ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ適宜選舉人數名ツ、ヲ呼出シ投票用紙ヲ交付スヘシ

第九條 選舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入レタル各選舉人遲滯ナク記載シ得ル丈ニ數箇ノ筆硯墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 選舉人出入ノ門戸及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 投票函ヲ閉鎖スルトキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ輪ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ輪ハ投票所管理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條 選舉法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得點ヲ記入スヘキ點數ヲ算ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被選人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 選舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十五條 選舉法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ當選人ニ付與スヘキ當選證書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ選舉會場ハ衆議院議員第何區選舉會場ト記シ各其門戸ニ之ヲ掲クヘシ

書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

憲法△參照法令

内務省訓令第七號

明治二十三年 三月十日

府縣 沖繩縣 除ク

明治二十二年(六月)勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ラルヘシ

第一條 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)前滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス

第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已テ合算シテ名簿調製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云

第四條 賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及質入地ノ地租及數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラス

第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族(公侯爵ヲ除)ノ當主ヲモ包含ス

第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

明治二十三年八月二十三日内務省第三十一號
北海道廳長
官ノ七字
追加

内務省訓令第十號

明治二十三年 三月十三日

警視廳 府縣 集治監 假留監

明治二十二年四月勅令第六十號會計規則本年四月一日以降實施ニ付テハ當省所管ニ係ル取扱方左ノ通心得ヘシ

一會計規則第九十六條ノ部局長ハ警視廳ハ總監北海道廳ハ長官府縣ハ知事集治監假留監ハ典獄ヲ以テス但島廳ハ島司ヲ以テ部局長ノ代理官ト爲スコトヲ得

一會計規則第六十七條第九十條第九十一條第九十二條第百條ノ檢査其他ノ官吏ハ部局長ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得

一會計規則第三十條第四十九條ニ據リ毎月差出スヘキ收入報告書及支出報告書ハ翌月十日迄ニ該廳ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

一會計規則第九十八條ニ據リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ差出スヘキ計算書ハ毎月一回トシ其仕拂ノ了リタル日ヨリ十日以内ニ提出スヘシ

大藏省令第二十一號

明治二十三年 九月四日

會計法ニ基キ計算出納ニ關スル諸證書中ニ記載スル金員ニシテ「三」「廿」「卅」ノ數字ハ自今「參」「貳拾」「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

大藏省令第二十七號

明治二十三年 十月八日

會計規則第三十六條但書ニヨリ會計主務官ヨリ金庫ニ送付シタル仕拂命令及仕拂請

●憲法 ●參照法令

求書ニシテ受取人ニ現金交付前ニ於テ誤拂過渡ニ書タルコトヲ發見シタルトキ整理手續左ノ通り定ム

第一條 仕拂命令官ヨリ仕拂命令及仕拂請求書ノ金額誤拂過渡ニ付編入ニ編入ノ儀金庫ヘ令達方大藏大臣ヘ請求スヘシ但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分誤拂過渡ナルトキハ其一部分ヲ受取人ニ交付シ殘額ハ歳入ニ編入ノ儀金庫ヘ令達方ヲ請求スヘシ

第二條 前條請求書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 仕拂命令及仕拂請求書ノ金額、番號、年度、科目、振出日付、仕拂命令官會計主務官官氏名、仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名
- 一 誤拂過渡トナリタル事由
- 一 誤拂過渡ヲ歳入トスヘキ歳入ノ主管廳名(北海道廳府縣ノ歳入ハ其廳府縣名)

第三條 仕拂命令官第一條ノ請求ヲ爲シタルトキハ同時ニ誤拂過渡ノ金額歳入ニ編入ノ儀ヲ歳入調定官ニ通知シ歳入ノ調定官ハ其金額、歳入科目、年度等ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第一條但書ノ場合ニ於テハ仕拂命令官ヨリ大藏大臣ヘ請求ノ趣ヲ會計主務官ニ通知シ會計主務官ハ正當ニ交付スヘキ金額ノ規定領收證書ヲ作り之ヲ債主ニ交付シタル規定領收證書ハ取上ケ廢棄スヘシ

第四條 第一條ノ請求ニ依リ大藏大臣ヨリ金庫ニ向テ令達ヲナシタルトキハ金庫ハ誤拂過渡ノ金額ヲ歳出ノ手續ヲ以テ拂出シ直チニ之ヲ令達書ニ指定ノ歳入主管廳取扱應及收入官吏ノ收入トシテ歳入ニ受入ルヘシ此場合ニ於テ金庫ハ直チニ其趣ヲ會計主務官及收入官吏ニ通知スヘシ

第五條 前條ニ依リ金庫ヨリ會計主務官ニ送付スル通知書ニハ第二條一項ノ事項ヲ記入スヘシ但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分誤拂過渡ノ場合ニハ其誤拂過渡ニ係ル金額ヲ記入スヘシ

前條ニヨリ金庫ヨリ收入官吏ニ送付スル通知書ニハ第二條一項及三項ノ事項ヲ記入スヘシ

第六條 收入官吏ハ第三條調定官ノ通知ニ依リ調定濟ノ記帳ヲ爲シ第四條金庫ノ通知ニ依リ收入濟ノ記帳ヲ爲スヘシ

第七條 本年大藏省令第十七號ニ依リ定メタル書式ノ仕拂請求書ニシテ本令ノ場合ニ係ルトキ其國庫納金引去高ハ總テ本年勅令第二百五號官吏遺族扶助法納金收入規則ニ依リ當該主管廳取扱應ノ歳入ニ立テ其他ハ本令ニ依リ收支ノ手續ヲナスヘシ

大藏省訓令第七十一號 明治二十三年 十二月二十日 金庫出納役

金庫出納證明規程左ノ通り規定明治二十三年度ヨリ施行ノ旨會計検査院ヨリ通知有之候ニ付此旨相心得ヘシ

金庫出納證明規程

第一條 會計規則第百十一條ニ據リ金庫出納役ノ證明スヘキ出納計算書ハ別紙第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 出納計算書ハ大藏省主任ノ局長ニ於テ國庫原簿及金庫ヲ検査シタル官吏ノ提出セシ各金庫検査報告書ニ照シ其計數及現存額ノ正確ナルヲ保證シ各金庫検査報告書ヲ添ヘ之ヲ送付スヘシ

憲法△參照法令

(明治二十三年七月十七日大藏省令第十七號)
 第七日大藏省令第十七號
 本年勅令第二百五號
 官吏遺族扶助法
 納金引去高ハ總テ本年勅令第二百五號官吏遺族扶助法納金收入規則ニ依リ當該主管廳取扱應ノ歳入ニ立テ其他ハ本令ニ依リ收支ノ手續ヲナスヘシ

第三條 出納計算書ノ證憑書類トシテ提出スヘキモノハ左ノ如シ

第一 歳入歳出及雜部ノ出納ニハ月計對照表

第二 大藏省證券代リ金ノ受入ニハ納額告知書其償還金仕拂ニハ仕拂命令書

第三 各年度仕拂未濟繰越金ニシテ債主ヘ交付高ニハ仕拂命令書期滿免除ニ依リ國庫ヘ納付高ニハ案内仕拂命令書及大藏大臣ノ命令書

第四條 前條證憑書類ハ毎月之ヲ整理シ第二號書式ニ依リ各金庫毎月出納内譯書ヲ調製シ證憑書類ト共ニ會計檢査院ヘ提出ノ爲メ翌月十五日迄ニ大藏省ヘ發送シ大藏省ハ其月末迄ニ之ヲ會計檢査院ヘ送付スルモノトス

但運輸不便土地遠隔ノ爲メ本條期限ニ依リ難キモノハ別ニ之ヲ定ム

第五條 證憑書類中檢査終了ノ上返付ヲ要スルモノハ其件名ヲ出納計算書ニ附記スヘシ

第六條 金庫出納役ニ對スル審理書及其答辨書ハ總テ大藏省ヲ經由スヘシ

(別紙書式略ス)

大藏省訓令第十一號 明治二十三年 二月二十一日 北海道府 縣

會計規則第三十三條但書集合仕拂命令ニ添付スヘキ各債主ノ金額氏名表書式經常歲出第一節恩賞諸祿ノ仕拂ニ係ルモノハ左ノ通心得ヘシ

集合仕拂命令第何號金額氏名表

(款)何々(項)何々

一金何圓 何ノ誰外何名

事由何々

内譯

金何圓 何ノ誰

金何圓 何ノ誰

金何圓 何ノ誰

以上

大藏省訓令第四十七號 明治二十三年 三月二十六日 北海道府 縣

明治二十二年四月勅令第六十號會計規則實施ニ付テハ從前常省管諸貸付金徵收ノ取扱ハ本年四月一日以降左ノ通心得ヘシ

一會計規則第九十六條ノ部局長トアルハ北海道廳長官府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

但島廳ハ島司ヲ以テ部局長ノ代理官トナスコトヲ得

一徵收ノ方法ハ明治二十二年十一月當省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序第三條以下ノ各條ヲ適用シ雜收入トシテ納付スヘシ

大藏省訓令第九十三號 明治二十三年 五月二十七日 北海道府 縣

各廳ニ於テ會計規則第三十三條作業及鐵道會計規則第十七條ニ據リ集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ發スルトキ之ニ添フヘキ各受取人ノ金額氏名表ハ金庫ニ於テ現金交付ノ際受取人ノ領收證書ト對査ヲ要スルカ爲メ多數ノ場合ニ在テハ授受上互ニ時間ヲ費シ不便ヲ來タスヘクニ付該表人名ノ上ニ順次番號ヲ付記スヘシ

會計主務官ニ於テ會計主務官心得第二十三條第二項ニ據リ受取人ヘ交付スヘキ集合

●憲法△參照法令

仕拂命令及集合仕拂請求書ニ係ル領收證書ニハ其金額ノ左方へ金額氏名表人名ノ上ニ記入アル番號ヲ付記スヘシ

大藏省訓令第三百三十七號 明治二十三年 十月十四日 金庫出納役

行政裁判所ヨリ各金庫へ寄托可相成豫納金ノ儀モ本年訓令第九十五號ニ據リ取扱フヘシ

文部省訓令第四號 明治二十三年 五月三十一日 北海道廳 府 縣

常省主管ノ歳入ニシテ會計規則第九十條第九十二條第百條ノ場合ニ於ケル検査員及其他ノ官吏ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命スヘシ

農商務省訓令第四號 明治二十三年 一月二十三日 大林区署

會計規則第三十三條但書集合仕拂命令ニ添付スル各債主ノ金額氏名表書式左ノ通心得ヘシ

集合命令第何號金額氏名表 (項) 何々

一金何圓

事由何々

内譯

一金何圓

何之誰

取扱官ニシテ
納金ノ手續
スヘシ

一金何圓

一金何圓

一金何圓

計金何圓

何之誰

何之誰

何之誰

何名

農商務省訓令第三十五號 明治二十三年 七月九日 大林区署

會計規則第六十七條第九十條第九十一條ノ検査員第九十二條ノ立會員第百條ノ代務員及物品會計規則第十一條第十二條ノ検査員第十五條ノ代務員ハ大林区署長之ヲ命スヘシ

行政裁判所告示第二號 明治二十三年 十一月十九日

行政訴訟豫納金手續左ノ通相定ム

豫納金手續

第一條 行政訴訟ヲ爲ス者ハ臨時特別費ヲ除クノ外訴訟提出ノ際ニ於テ書類送達等ノ費用ニ充ツル爲メ金貳圓ヲ豫納スヘシ

第二條 豫納ヲ爲サントスル者ハ當廳ノ保管金送付書ヲ以テ之ニ金員ヲ添ヘ大藏省豫納金局ニ納付スヘシ

第三條 第一條ノ豫納金ニ於テ仍ホ不足ナルトキハ追納セシムルコトアルヘシ 追納手續モ亦前條ニ依ルヘシ

●憲法△參照法令

第四條 豫納金ノ殘額アルトキハ訴訟事件終局ノ後之ヲ還付ス

帝國議會 明治二十三年 十二月三日官報號外

貴族院

○貴族院規則 貴族院ニ於テ昨日議決セシ貴族院規則ハ左ノ如シ

貴族院規則目錄

- 第一章 委員
 - 第二章 開議散會及延會
 - 第三章 議事日程
 - 第四章 議事
 - 第五章 議事録及速記録
 - 第六章 上奏建議及議案ノ奏上
 - 第七章 請願
 - 第八章 請假及辭職
 - 第九章 警察及秩序
 - 第十章 傍聽
 - 第十一章 懲罰
 - 第十二章 衆議院トノ關係
- 貴族院規則
- 第一章 委員
- 第一節 通則

第一節 通則

第一條 委員會ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ沙ルコトヲ得ス

第二條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第三條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第四條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

委員長ハ討論スルノ權ヲ妨ケラルハコトナシ

第二節 全院委員

第五條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選

人トス同數者アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 全院委員長故障アルトキハ第一部長ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

第七條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用キス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第八條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ

即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第九條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ

委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ賛成者ヲ待チテ議題トナスヘシ

第十一條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第十二條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

●憲法△參照法令

第十三條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若シ議事終局セサルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第十四條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タズ其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

第十五條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第十六條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ職務ヲ行フ

第三節 常任委員

第十七條 議院ハ毎會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

一 資格審査委員

九人

二 豫算委員

四十五人

三 懲罰委員

九人

四 請願委員

二十七人

其ノ他議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第十八條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ議員中ヨリ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同一日時ニ於テスヘシ

第二十條 當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第二十一條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第二十二條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 常任委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條 常任委員會ハ無名投票ヲ以テ委員長副委員長各一名ヲ選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

委員長故障アルトキハ副委員長之ヲ代理スヘシ

第二十五條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第二十六條 常任委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 常任委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第二十八條 常任委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議院ニ提出スヘシ

常任委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

常任委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ付託スルコトヲ得

議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムル者ノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第二十九條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十條 常任委員會故ナク其ノ報告ヲ遲延スルトキハ議院ハ委員ヲ改選スルコトヲ得

●憲法△參照法令

第三十一條 常任委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其意見ヲ提出スルコトヲ得

第三十二條 常任委員會ハ委員會議録ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第三十三條 常任委員會議録ハ委員長及副委員長之ニ署名捺印シ事務局ニ保存スヘシ

第三十四條 常任委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査ヲ互選スヘシ
各科ノ主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補助スルコトヲ得

第四節 特別委員

第三十五條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第三十六條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ得

第三十七條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ以テ併セテ之ニ付託スルコトヲ得

第三十八條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受クルノ後更ニ其ノ事件ヲ同一委員ニ付託シ又ハ委員ヲ改選シテ之ニ付託スルコトヲ得

第三十九條 本章第三節第二十三條ヨリ第三十三條ニ至ルマテノ規定ハ本節ニ適用ス

第二章 開議散會及延會

第四十條 會議ハ通常午前十時ニ始ム

第四十一條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後四時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ通信ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス
第四十三條 出席議員若シ定足數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算ニ至リ仍定足數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ
會議中退席者アリテ定足數ヲ闕キタルトキ亦同シ

第四十四條 議長散會又ハ延會ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第三章 議事日程

第四十五條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序並ニ開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第四十六條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ

第四十七條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第四十八條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

第四十九條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付キ開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

憲法△參照法令

第五十條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程ヲ定ムヘシ

第五十一條 衆議院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ハ之ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 衆議院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次キ議事日程ニ記載スヘシ

第四章 議事

第一節 發議及動議

第五十三條 議員法律案又ハ上奏案建議議案ヲ發議セムトスル者ハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出シ議長ハ印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第五十四條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ動議ハ一人以上ノ賛成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第二節 讀會

第五十五條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此限ニ在ラス

第五十六條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第五十七條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ衆議院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員ノ報告ヲ待チ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決ス

ヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若シ委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第五十八條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開ヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第五十九條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ

議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第六十條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第六十一條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ賛成ヲ待タスシテ議題トナスヘシ

第六十二條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連子又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ提出スル者アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第六十三條 第三讀會ニ於テハ第二讀會ヲ決議ヲ以テ議案トス

議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第六十四條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第六十五條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第六十六條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得ス但シ議案中互ニ抵觸スル事項又ハ現行法律ト抵觸スル事項アルコトヲ發見シタルト

キ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス
第三節 討論

第六十七條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ賛成ノ旨ヲ書記官ニ通告スルコトヲ得

第六十八條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ賛成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ
前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ効ヲ失フ

第六十九條 通告ヲ爲サル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニアラサレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス
通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲サル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第七十條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ヒ及自己ノ氏名ヲ呼ヒ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ
第七十一條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指シテ發言セシムヘシ

第七十二條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得
第七十三條 議題ニ對スル發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ議長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

第七十五條 國務大臣政府委員ハ其ノ席ニ於テ起立シテ發言スヘシ

第七十六條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第七十七條 議員ハ同一ノ議題ニ付キ發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 資格ニ付キ異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第八十條 議員ハ會議ニ於テ意見書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

國務大臣政府委員及委員長又ハ報告者ハ理由書又ハ報告書ヲ朗讀スルコトヲ得

第八十一條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カムヘシ

第八十二條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第八十三條 議場ニ於テ議員ヲ呼フトキハ敬稱ヲ用ウヘシ

第八十四條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス
第八十五條 發言者未タ盡キスト雖議員ハ討論終局ノ動議ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

●憲法△參照法令

コトヲ得

第四節 修正

第八十七條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第八十八條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ決ヲ取ルヘシ

第八十九條 同一ノ議題ニ付キ數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議長ハ表決ノ順序ヲ定ム若シ議員ノ異議アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待テ討論ヲ用ニスシテ之ヲ決スヘシ

第九十條 既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

第九十一條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ取ルヘシ

第九十二條 表決ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス

第九十三條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第九十四條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

第九十五條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多少ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議ヲ申立ツルモノアルトキハ議長ハ書記官ニ命ジ議員ノ氏名ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ

第九十六條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用ニスシテ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第九十七條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各々其ノ氏名テ記シ投票函ニ投入スヘシ

第九十八條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第九十九條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

第一百條 氏名點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ

第一百一條 投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第一百二條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第六節 豫算會議

第一百三條 豫算ノ會議ハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第一百四條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ

第一百五條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ニ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

第五章 議事録及速記録

●憲法△參照法令

百三十九

第一節 議事録

- 第六條 議事録ハ左ノ事項ヲ記載ス
 - 一 議院成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時
 - 二 開議延會及散會ノ月日時
 - 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
 - 四 勅語及勅旨
 - 五 議長及委員長報告ノ件
 - 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
 - 七 議題トナリタル動議及動議者ノ氏名
 - 八 決議ノ事件
 - 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
 - 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第六十七條 議員議事録ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用キシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ
- 第六十八條 議事録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名捺印スヘシ
- 第六十九條 第二節 速記録
 - 第九條 議事速記録ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス
 - 第十條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス
 - 第十一條 演說シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後六時マテニ其訂正ヲ求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演說ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス

速記録ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ若原者アルヲ代テ訂正ヲ用キシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ

第六章 上奏建議及議案ノ奏上

- 第六十二條 議院上奏シ又ハ勅諭ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ請フヘシ
- 第六十三條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第六十四條 政府又ハ衆議院ヨリ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用キ内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ
 - 貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス
 - 政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用キ内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ
- 第七節 請願
 - 第六十六條 議院ハ請願者ノ住所身分年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書ニ非サレハ受理セス請願者自ラ署名スルコト能ハス他人ヲシテ代署セシムルトキハ代署シタル人其ノ由ヲ付記シ之ニ署名捺印スヘシ
 - 第六十七條 法人ノ請願書ハ總代人之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ
 - 第六十八條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ
 - 第六十九條 請願委員ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ
 - 第七十條 議員簡短ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ請求スルトキハ議長ハ討論ヲ用キシテ議院ノ決ヲ取り時日ヲ限り請願委員ニ付託スヘシ

第二百一十一條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第二百一十二條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ毎週一回議員ニ配付スヘシ
請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニアラサレハ印刷配付セス

第二百一十三條 請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第二百一十四條 請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ特別ノ報告ヲ爲スヘシ

第二百一十五條 請願委員ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ委員ノ決議ヲ以テ確定トス

第二百一十六條 請願書ハ會議ニ付スルモノ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議院ハ討論ヲ用サスシテ之ヲ決スヘシ

第八章 請暇及辭職

第一節 請暇

第二百一十七條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

公務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ關席屆書ヲ差出スヘシ

第二百一十八條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ルハ者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於

テ議長ニ届出ヘシ

第二百一十九條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第二百二十條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ効ヲ失フ

第二節 辭職

第二百二十一條 伯子男爵被選議員及勅任議員辭職セムトスルトキハ議長ヲ經由シテ之ヲ奏請スヘシ

第二百二十二條 辭表中不敬又ハ無禮ノ言辭アリト認ムルトキハ議長ハ其辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査報告セシメ議院ニ諮フテ後之ヲ處分スヘシ

第九章 警察及秩序

第一節 警察

第二百二十三條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第二百二十四條 守衛ハ議院建物内警察官吏ハ議院建物外ノ警察ヲ爲ス

第二百二十五條 議院ノ防火點燈導水煖爐及掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督ス

第二百二十六條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得

第二節 議場内ノ秩序

第二百二十七條 議員議場ニ入ルトキハ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」若クハ羽織袴ヲ著スヘシ總テ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス

第三百三十八條 議員議場ニ入ルトキハ外套傘杖ノ類ヲ携帶スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

第三百三十九條 議場内ニ於テ吸烟スヘカラス

第三百四十條 議員ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外議事中新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

第三百四十一條 何人モ議事中替聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演説及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

第三百四十二條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ議員ハ總テ沈黙スヘシ

第三百四十三條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第十章 傍聽

第三百四十四條 傍聽席ヲ分テ皇族席、外國外交官席、高等官席、衆議院議員席、公衆席及新聞記者席トス

第三百四十五條 外國外交官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第三百四十六條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第三百四十七條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ

書記官長ハ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ部員ニ配付ス

第三百四十八條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席ニ空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官長ハ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第三百四十九條 在東京新聞社ノ爲ニ一會期ニ通スル傍聽券二十枚ヲ交付シ各報ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第三百五十條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第三百五十一條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 羽織袴又ハ洋服ヲ著スヘシ

二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス

三 傘杖ノ類ヲ携帶スヘカラス

四 飲食又ハ吸烟スヘカラス

五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス

六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第三百五十二條 武器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

第三百五十三條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第三百五十四條 祕密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席喧擾ナルニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十一章 懲罰

第三百五十五條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三百五十六條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止スルコトヲ得

第三百五十七條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

憲法△參照法令

第五十八條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用キスシテ衆議院ノ決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第五十九條 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス

第六十條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第六十一條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第六十二條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處分スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第六十三條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメムトスルトキハ懲罰委員之ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第六十四條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ノ職權ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セラルルコト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第六十五條 出席停止ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十六條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ヲ解クヘシ

第六十七條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第六十八條 議院法第九十一條ノ禁ヲ犯シ其ノ情重キ者同會期中出席ヲ停止セララルコト三回ニ至リ更ニ出席停止ニ當ルヘキ事犯アルトキハ除名ノ手續ヲナスコトヲ得

第六十九條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ懷シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情

重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名ノ手續ヲナスコトヲ得

第七十條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第七十一條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

第十二章 衆議院トノ關係

第七十二條 議案ヲ衆議院ニ移ストキハ議長ハ書記官ヲ派シ之ヲ衆議院書記官ニ傳達セシム

第七十三條 衆議院ヨリ議案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第七十四條 協議委員ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ選舉スヘキ人員ヲ連記スヘシ

第七十五條 議院法第五十五條ニ依リ衆議院ヨリ回付シタル修正案ヲ議シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第七十六條 協議會ニ於ケル貴族院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第七十七條 協議委員ノ數協議會ノ定足數及決議ノ方法並協議會議長ノ權限ハ議院法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

帝國議會 明治二十三年 十二月三日官報號外

衆議院

○衆議院規則 衆議院ニ於テ一昨一日議決セシ衆議院規則ハ左ノ如シ

衆議院規則目錄

第一章 成立

第二章 委員

- 第三章 議員資格審査
 - 第四章 開議散會及延會
 - 第五章 議事日程
 - 第六章 議事
 - 第七章 議事録及速記録
 - 第八章 質問
 - 第九章 上奏建議及議案ノ奏上
 - 第十章 請願
 - 第十一章 請暇及辭職
 - 第十二章 警察及秩序
 - 第十三章 傍聽
 - 第十四章 懲罰
 - 第十五章 貴族院ニ對スル關係
- 衆議院規則
- 第一章 成立
 - 第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ
 - 第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ
 - 第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一二充テタルトキハ議員ハ議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ
 - 第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ
 - 第五條 議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票箱ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ

- 名刺函ニ投入スヘシ
- 現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ開鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス
- 第六條 投票終リタルキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ
 - 第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 - 第八條 投票ノ過半数ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半数ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 - 同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ
 - 第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ
 - ・副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ
 - 第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラルコトヲ得
 - 第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ
 - 第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ
 - 第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ
 - 書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ
 - 第十五條 議長ハ議長席ニ著キタルノ後書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部

屬ヲ定ム

第十六條 議員ノ議席ハ每會期ニ之ヲ定メ各席ニ號數ヲ付ス
第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス
總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加
フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部八年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ
互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ八年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ
以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス
理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通
報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總
數三分ノ一ニ充チタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族
院ニ通報スヘシ

第二章 委員

第一節 通則

第二十五條 委員ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第二十六條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第二十七條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第二十八條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ委員長
ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 委員長自ラ討議ニ與カラントスルトキハ委員中ヨリ代理者ヲ指名シ委
員長席ニ著カシムヘシ

第二節 全院委員

第三十條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ
當選人トス

過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者二人ニ就キ更ニ決選投票ヲ
行フ

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

選舉ニ付異議ヲ生スルトキハ議長之ヲ院議ニ諮ヒテ定ムヘシ

第三十一條 全院委員長故障アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ行ヒ第一部長又故障ア
ルトキハ順次ニ第二部長以下之ヲ行フ

第三十二條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用キス議院ノ
決議ヲ以テ之ヲ開ク

第三十三條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ
即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ議會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記
載スヘシ

第三十四條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ

委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ賛成ニ依リ議題ト爲スヘシ

第三十六條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第三十七條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第三十八條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若シ議事終局セサルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

第三十九條 此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第四十條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

第四十一條 復席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第三節 常任委員

第四十二條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

一 豫算委員 六十三人

二 懲罰委員 二十七人

三 請願委員 三十六人

其ノ他議員ノ動議ニ依リ議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第四十三條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ總議員中ヨリ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同一日時ニ於テスヘシ

第四十四條 各部ニ於テ當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第四十五條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第四十六條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕當選ヲ行フヘシ

第四十七條 委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十八條 委員長ハ無名投票ヲ以テ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 委員會ハ無名投票ヲ以テ委員中ヨリ一名又ハ數名ノ理事ヲ互選シ委員會議錄及其ノ他文書ノ事ヲ掌ラシム委員長故障アルトキハ理事之ヲ代理スヘシ但シ會議錄及其ノ他文書ノ事ハ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得

第五十條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第五十一條 委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第五十二條 委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第五十三條 議員委員會議錄及其ノ他參考文書ノ閱覽ヲ求ムル者アルトキハ審査ノ障碍ヲ生セサル限ハ之ヲ許スヘシ但シ議院ノ外ニ携帶スルコトヲ許サス

第五十四條 委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議長ニ提出スヘシ委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ倚託スルコトヲ得
議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムル者ノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配
付スヘシ

第五十五條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 委員會故ナク其ノ報告ヲ遅延スルトキハ議院ハ改メテ他ノ委員ヲ選任
スルコトヲ得

第五十七條 委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議長ニ提出セムト欲ス
ル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其意見書ヲ提出スルコト
ヲ得

第五十八條 委員會ハ委員會會議録ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領及其ノ他
重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第五十九條 委員會會議録ハ委員長及理事之ニ署名シ事務局ニ保存スヘシ

第六十條 政府ニ返付スヘキ文書及所有主アルモノヲ除ク外委員ノ用ニ供シタル
文書ハ其ノ任務ヲ終ヘタル後之ヲ事務局ニ保存スヘシ

第六十一條 豫算委員及請願委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲ス
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査ヲ互選スヘシ
各科主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補助スルコトヲ得

第四節 特別委員
第六十二條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ
之ヲ増加スルコトヲ得

第六十三條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ
當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得

第六十四條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ併セテ之ニ付
託スルコトヲ得

第六十五條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受クルノ後更ニ其ノ事件ヲ同一委員ニ付託シ
又ハ他ノ委員ニ付託スルコトヲ得

第六十六條 第四十七條ヨリ第五十條ニ至ルマテノ規定ハ本節ニ適用ス

第三章 議員資格審査

第六十七條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者ハ異議申立書及其ノ副本
一通ヲ作り署名シテ之ヲ議長ニ差出スヘシ

議長ハ申立書ヲ資格審査委員ニ付シ及其ノ副本ヲ被告議員ニ送達シ期日ヲ定メ答
辯書ヲ差出サシムヘシ

被告議員天災事變及疾病ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證
明スルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六十八條 議長被告議員ノ答辯書ヲ受取りタルトキハ資格審査委員ニ付シ時日ヲ
期シテ之ヲ審査セシムヘシ

第六十九條 被告議員期日内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ資格審査委員ハ直チニ審
査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

第七十條 資格審査委員ハ必要ト認ムルトキハ議長ヲ經由シテ中立議員及被告議
員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第七十一條 委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シ
タル後院議ニ付スヘシ

第七十二條 被告議員ハ自ラ議院ニ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムル

コトヲ得

第四章 開議散會及延會

第七十三條 會議ハ通常午後一時ニ始ム

第七十四條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後六時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其席ニ著キ諸般ノ通信ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

第七十六條 議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第七十七條 議長散會延會又ハ中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第七十八條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ

第七十九條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序並開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第八十條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第八十一條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

第八十二條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付キ開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討論ヲ用キスシテ議院

ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第八十三條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程ヲ定ムヘシ

第八十四條 貴族院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十五條 貴族院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次キ議事日程ニ記載スヘシ

第六章 議事

第一節 發議及動議

第八十六條 議員法律案又ハ上奏案建議案ヲ發議セムトスル者ハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出シ議長ハ印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第八十七條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ動議ハ一人以上ノ賛成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第二節 讀會

第八十八條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此限ニ在ラス

第八十九條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議員ハ議案ニ對シ疑義アルトキハ國務大臣政府委員又ハ發議者ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

●憲法△參照法令

百五十七

第九十條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ
 議院ハ委員ノ報告ヲ待テ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ
 議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若シ委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待テ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ
 第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢案シタルモノトス
 第九十一條 第二讀會ハ第二讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得
 第九十二條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ
 議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得
 第九十三條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得
 議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得
 第九十四條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ賛成ヲ待タスシテ議題トナスヘシ
 第九十五條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連子又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ提出スル者アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待テ討論ヲ用サスシテ之ヲ決スヘシ
 第九十六條 第二讀會ノ終ニ於テ議院ハ便宜ニヨリ議案ヲ委員ニ付託シテ修正決議ノ條項及字句ヲ整理セシムルコトヲ得
 第九十七條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十八條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ
 第九十九條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得但シ議案中互ニ牴觸スル事項又ハ現行法律ト牴觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス
 第三節 討論
 第一百條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ賛成ノ旨ヲ記シテ書記官ニ通告スルコトヲ得
 第一百一條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ賛成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ
 前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ効ヲ失フ
 第一百二條 通告ヲ爲ササル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニアラサレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス
 通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲ササル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得
 第一百三條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ヒ及自己ノ氏名ヲ告ケ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ
 第一百四條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指シテ發言セシメ同時ノ起立ナルトキハ議長ノ指定スル所ニ依ル
 第一百五條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得
 第一百六條 凡ヘテ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ極メテ簡短ナル發言及持ニ城

●憲法△參照法令

長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス
第七七條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

第八八條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第九九條 議員ハ同一ノ議題ニ付キ發言ニ回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得
國務大臣政府委員發議者又動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第十一條 資格ニ付キ異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第十二條 會議ニ於テ意見書又ハ理由書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證若ハ報告ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ豫メ之ヲ通告シ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第十四條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第十五條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第十六條 發言者未タ盡キスト雖議員ハ討論終局ノ動議ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第十七條 議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

トヲ得

第四節 修正

第十八條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第十九條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ決ヲ取ルヘシ

第二十條 同一ノ議題ニ付數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議長ハ表決ノ順序ヲ定ム其ノ順序ハ原案ニ最モ遠キモノヨリ先ニス若議員ノ異議アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待テ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第二十一條 既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ賛成者ト共ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ取ルヘシ

第二十三條 修正案原案共ニ過半数ノ賛成ヲ得サル場合ニ當リ議院ニ於テ廢案ス可ラサルモノト議決スルトキハ特ニ委員ヲシテ其案ヲ起サシメ會議ニ付スルコトヲ得

第五節 表決

第二十四條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ何人モ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第二十六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多數ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員

議長ノ宣告ニ對シ異議ヲ申立ル者アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ
 氏名點呼ノ結果ニ付キ仍議員ヨリ異議ヲ申立テ二十人以上ノ賛成アルトキハ議長ハ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ
 第二百二十七條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用キスシテ記名若クハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ
 第二百二十八條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ
 第二百二十九條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ若シ球數ト名刺ノ數ト同シカラサルトキハ再投票ヲ行フ
 第二百三十條 氏名點呼又ハ記名若クハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ
 第二百三十一條 總テ投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ
 第二百三十二條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス
 第六節 豫算會議
 第二百三十三條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得
 豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ
 第二百三十四條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ヲ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得
 第七章 議事録及速記録

第一節 議事録

第二百三十五條 議事録ハ左ノ事項ヲ記載ス
 一 議院成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時
 二 開議延會中止及散會ノ月日時
 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
 四 勅語及勅旨
 五 議長及委員長報告ノ件
 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
 七 議題トナリタル動議及動議者ノ氏名
 八 決議ノ事件
 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項
 第二百三十六條 議員議事録ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ
 第二百三十七條 議事録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名スヘシ
 第二節 速記録
 第二百三十八條 議事速記録ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス
 第二百三十九條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス
 第四百十條 演說シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後七時迄ニ訂正ヲ求ムルコト

ヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演説ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス
速記録ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ賛成者アルヲ待チ討論ヲ
用キスシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ

第八章 質問

第四百一十一條 議員政府ニ對スル質問ニ付國務大臣ノ答辯其ノ要領ヲ得サルトキハ
議場ニ出席ヲ求メ更ニ精細ノ質問ヲ爲スコトヲ得

第四百一十二條 質問ニ對スル答辯者ハ答辯ヲ爲サ、ル理由ニ付動議ヲ提出スルモノ
アリ三十人以上ノ賛成アルトキハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得

第九章 上奏建議及議案ノ奏上

第四百一十三條 議院上奏シ又ハ勅諭ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ
官内大臣ニ依リ謁見ヲ乞ヒ勅許ヲ經テ後參内スヘシ

第四百一十四條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第四百一十五條 政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ左ノ言辭ヲ
用キ内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス
第四百一十六條 政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用キ内閣總
理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

衆議院ハ某案ニ付テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奉請ス

第十章 請願

第四百一十七條 議院ハ請願者ノ住所身分職業年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書
ニ非サレハ受理セス請願者自ラ署名スルコト能ハス他人ヲシテ代署セシムルトキ
代署シタル人其ノ由ヲ付記シ之ニ署名捺印スヘシ

第四百一十八條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ

第四百一十九條 請願書ハ普通ノ邦文ヲ用フヘシ若シ外國語ヲ用キサルヲ得サルトキ
ハ之ニ註解ヲ附スヘシ

第四百二十條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ

第四百二十一條 請願委員ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第四百二十二條 議員簡短ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ請求
スルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取り時日ヲ限り請願委員ニ付託ス
ヘシ

第四百二十三條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分職業氏名
紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第四百二十四條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ毎週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニアラサレハ印刷配付セス

第四百二十五條 請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ其ノ大要ヲ記シ議院ニ
報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第四百二十六條 請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ特別ノ報告
ヲ爲スヘシ

第四百二十七條 請願委員ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ一
週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ委員ノ決議ヲ以テ確定
トス

第百五十八條 請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議院ハ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第十一章 請暇及辭職

第一節 請暇

第百五十九條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ公務又ハ疾病若ハ一時己ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ出席屆書ヲ差出スヘシ

第百六十條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ル、者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出ヘシ

第百六十一條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ臨時事變ノ爲ニ此ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ後日其ノ理由ヲ申告シ承認ヲ受クヘシ

第百六十二條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ効ヲ失フ

第二節 辭職

第百六十三條 議員辭職セムトスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出スヘシ

第百六十四條 議長ハ辭表ヲ朗讀セシメ討論ヲ用キスシテ其ノ許否ヲ議決セシムヘシ其ノ閉會中ニ於テハ議長之ヲ處分シ次會期ノ始ニ於テ議院ニ報告スルコトヲ得第百六十五條 辭表中不敬又ハ無禮ノ文辭アリト認ムルトキハ議長ハ朗讀ヲ禁止シテ其ノ要領ヲ議院ニ報告スルコトヲ得

第百六十六條 前條ノ場合ニ於テハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査セシムルコトヲ得

第十二章 警察及秩序

第一節 警察

第百六十七條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第百六十八條 守衛ハ議事堂内警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂内ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第百六十九條 院内ノ防火點燈導水煖爐及室内掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督ス

第百七十條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

第百七十一條 議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロックコート」又ハ「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス

第百七十二條 議場ニ入ルモノハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

第百七十三條 議場内ニ於テ吸烟スヘカラス

第百七十四條 議事中ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

第百七十五條 何人モ議事中賛聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

第百七十六條 散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ得ス

第七十七條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ何人モ黙テ沈黙スヘシ

トヲ得

第十三章 傍聽

第七十九條 傍聽席ヲ分テ皇族席、外國交際官席、貴族院議員席、公衆席及新聞記者席トス

第八十條 外國交際官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ承ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第八十一條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第八十二條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ
書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ部員ニ配付ス

第八十三條 在東京日刊新聞社ニハ一會期ニ通スル傍聽券二十五枚在地方日刊新聞社ニハ十枚ヲ交付シ各社ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第八十四條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第八十五條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ傍聽人紹介人トモ其氏名ヲ傍聽券ニ記入スヘシ

第八十六條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第八十七條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ

二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス

三 傘杖ノ類ヲ携帶スヘカラス

四 飲食又ハ吸烟スヘカラス

五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス

六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第八十八條 武器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

第八十九條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第九十條 秘密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾ナルニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十四章 懲罰

第九十一條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十二條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止スルコトヲ得

第九十三條 部ニ於テ懲罰事犯アルトキ部長ノ處分ハ委員長ノ例ニ同シ

第九十四條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

第九十五條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ議論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第九十六條 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス

第九十七條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可

●憲法△參照法令

ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第九十八條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第九十九條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依

リ之ヲ處スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第二百條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメムトスルトキハ懲罰委員ハ謝辭ノ要領

ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第二百一條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セラル、

コト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二百二條 出席停止ハ二週間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百三條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ハ解ケタルモノトス

第二百四條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直

ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第二百五條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重

キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名スルコトヲ得

第二百六條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第二百七條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁

スルコトヲ得

議院ニ於テ懲罰事犯ナシト議決シタルトキハ議長ノ命令ハ自ラ消滅ス

第十五章 貴族院ニ對スル關係

第二百八條 議案ヲ貴族院ニ移ストキハ議長ハ書記官長ヲシテ之ヲ貴族院議長ニ傳

達セシム

第二百九條 貴族院ヨリ議案ヲ受取りタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第二百十條 協議委員ノ選舉ハ第六十三條ノ例ニ依ル

第二百十一條 議院法第五十五條ニ依リ貴族院ヨリ廻付シタル修正案ヲ議シ及協議

會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第二百十二條 協議會ニ於ケル衆議院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第二百十三條 協議委員ノ數協議會ノ定數及決議ノ方法並協議會議長ノ權限ハ議院

法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

衆議院議員選舉人及被選舉人資格ノ件(高知縣) 明治二十二年三月十一日

本年法律第三號衆議院議員選舉法ニ由ルトキハ同法第十四條第四項ノ項ニ該當スルモノハ選舉被選舉ノ資格

ナク而シテ刑法第六十四條ニハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀

中記載スルニ非サレハ復權ヲ得スト大赦特赦ノ分界判然セリ抑大赦ナルモノハ唯リ其罪ヲ免スニ止マラス其罪

囚ヲシテ會テ罪ヲ犯セシトナキ純良ノ人トナシテ社會ニ出スノ精神ニ依リ自カラ直チニ復權ヲ得セシムル

モ議員選舉法第十四條ニ掲グル故免ノ文字ハ大赦特赦ヲ同一視シ同條第四第五ノ項ニ該當スルモノハ復權後尙

三箇年間ハ公權中ノ一部ヲ停止スルハ大赦ノ精神ニ對シ稍妥當ヲ缺クモノ、如シ然リト雖トモ文字上ノ見解ヲ

下ストキハ議員選舉法第十四條ニ掲グル故免ノ文字ニハ大赦特赦ヲ包含セルモノト解釋致シ可然哉

(內務省)指令 明治二十二年三月十六日

大赦ヲ受ケタル者ハ法律第三號第十四條第五項ノ故免ニ包含セス

法律第三號
衆議院議
員選舉法

會計法實施ニ付議入簿等製方ノ件(山口縣收稅長) 明治二十三年二月二十八日

來二十三年度ヨリ會計法實施ニ付テハ會計規則第百十五條ニ依リ議入事務管理職ニ於テ製方スル議入簿ハ客年

八月大藏省令第十一號(第十五號書式)ニ據ル儀ニ有之就テハ十九年十二月大藏省令第五十九號ニ依リ開製ス

ル議入簿管理職ハ二十二年年度起リ自然廢止ニ請シ候儀ト承知可然哉又會計規則第三十條(第卅一條)ニ依リ開製ス

憲法△參照法令

(明治廿三年二月十二日)
 大藏省令
 第三號
 稅收法
 第十五條
 第一號
 收入官
 更ハ治明
 二年大藏
 令第十一
 書式第四
 二據り收
 報告書ヲ
 月計收入
 ヲ添へ去
 七日マテ
 府縣知事
 送付スヘシ

大藏省令第十一號第四段第五號書式ノ收入報告書概要ハ毎月各日ニ區分スルニ止リ二十年一月大藏省令
 第一號別表ノ如キ收納區分ヲ要セサル儀ニ候哉
 追テ本文ノ通り訓令第五十九號ハ罰減ニ歸シタルモノトセハ補助簿ノ總額ニ限り適宜可然
 (大藏省主稅局)回答 明治二十三年三月六日
 總テ御見込ノ通ニテ可然尤該人事務管理處ハ大藏省ナレバ以テ該入簿及收入總報告書ハ御製ニ及ハス費收迄
 行制則第十五條收入集計書ヲ以テ御報告可然

大日本帝國民法

(明治廿三年二月十二日)
 大藏省令
 第三號
 徵收法施行
 細則第十五
 條(第一項)
 更(第一項)
 二年(第一項)
 令(第一項)
 式(第一項)
 報(第一項)
 告(第一項)
 月(第一項)
 計(第一項)
 添(第一項)
 府(第一項)
 七(第一項)
 日(第一項)
 送(第一項)
 付(第一項)
 縣(第一項)
 知(第一項)
 事(第一項)
 へ(第一項)
 シ(第一項)

大藏省令第十一號 逕第四號第五號書式ノ收入報告書 摘要ハ毎月各日ニ区分スルニ止リ二十年一月大藏省令
 第一號別表ノ如キ收納区分ヲ要セサル儀ニ候哉
 追テ本文ノ通り訓令第五十九號ハ消滅ニ歸シタルモノトセハ補助簿ノ保管年限リ適宜明製可然哉
 (大藏省主税局) 回答 明治二十三年三月六日
 總テ御見込ノ通ニテ可然 尤歳入事務管理廳ハ大藏省ナルヲ以テ歳入額及收入總報告書ハ御製ニ及ハス徵收施
 行細則第十五條收入集計書ヲ以テ御報告可然

大日本帝國民法

民法

朕民法中財産編財産取得編債權擔保編證據編ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

法律第二十八號 (官報 四月二十一日)

民法財産編目錄

總則 財産及ヒ物ノ區別

第一部 物 權

第一章 所有權

第二章 用益權、使用權及ヒ住居權

第一節 用益權

第一款 用益權ノ設定

第二款 用益者ノ權利

第三款 用益者ノ義務

第四款 用益權ノ消滅

第二節 使用權及ヒ住居權

第三章 賃借權、永借權及ヒ地上權

第一節 賃借權

第一款 賃借權ノ設定

●民法△財産編

第二款 賃借人ノ權利
 第三款 賃借人ノ義務
 第四款 賃借權ノ消滅
 第二節 永借權及ヒ地上權
 第一款 永借權
 第二款 地上權
 第四章 占有
 第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコトヲ得ヘキ物
 第二節 占有ノ取得
 第三節 占有ノ効力
 第四節 占有ノ喪失
 第五章 地役
 總則
 第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役
 第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利
 第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入
 第三款 經界
 第四款 圍障
 第五款 互有
 第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望及ヒ明取窓
 第七款 或ル工作物ニ要スル距離

前諸款ニ共通ナル規則
 第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役
 第一款 地役ノ性質及ヒ種類
 第二款 地役ノ設定
 第三款 地役ノ効力
 第四款 地役ノ消滅
 第二部 人權及ヒ義務
 總則
 第一章 義務ノ原因
 總則
 第一節 合意
 第一款 合意ノ種類
 第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件
 第三款 合意ノ効力
 第一款 第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力
 第二款 第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力
 第四款 合意ノ解釋
 第二節 不當ノ利得
 第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪
 第四節 法律ノ規定
 第二章 義務ノ効力

總則

第一節 直接履行ノ訴權

第二節 損害賠償ノ訴權

第三節 擔保

第四節 義務ノ諸種ノ體様

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第三款 債權者及ヒ債務者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

第三章 義務ノ消滅

第一節 辨濟

第一款 單繕ノ辨濟

第二款 辨濟ノ充當

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

第四款 代位ノ辨濟

第二節 更改

第三款 合意上ノ免除

第四節 相殺

第五節 混同

第六節 履行ノ不能

第七節 銷除

第八節 廢罷

第九節 解除

第四章 自然義務

民法

財產編

總則 財產及ヒ物ノ區別

第一條 財產ハ各人又ハ公私ノ法人ノ資産ヲ組成スル權利ナリ

此權利ニ二種アリ物權及ヒ人權是ナリ

第二條 物權ハ直チニ物ノ上ニ行ハレ且總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノニシ

テ主タル有リ從タル有リ

主タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 完全又ハ虧缺ノ所有權

第二 用益權、使用權及ヒ住居權

第三 賃借權、永借權及ヒ地上權

第四 占有權

從タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 地役權

第二 留置權

第三 動產質權

第四 不動產質權

第五 先取特權

民法△財產編